

「豊島区学校施設等長寿命化計画」の策定について

1. 策定に至る経過

令和2年3月～令和3年9月	学校施設長寿命化計画策定委員会の開催 (計9回)
令和3年11月17日	第4回定例会議員協議会での報告
令和3年12月1日から 令和4年1月7日まで	パブリックコメント
令和4年2月21日(予定)	豊島区学校施設等長寿命化計画の公表 パブリックコメントの結果公表

2. パブリックコメントの結果

- ・実施期間：令和3年12月1日から令和4年1月7日まで
- ・周知方法：広報としま12月1日号掲載、区ホームページ掲載
- ・閲覧場所：学校施設課窓口、区民事務所、図書館、区民ひろば、行政情報コーナー
- ・受付方法：メール5件
- ・提出意見数：24件

3. 計画案に対するご意見等と回答

番号	ご意見等の内容	回答
1	この10年間の計画の中で、実行が具体化されているのは千川中学校、要小学校のみで、そのほかの学校は検討のみである。10年後には、千登世橋中学校は、竣工後30年経つことになり、大規模改修が必要になる。多額の費用がかかる学校工事だが、地域の拠点ともなる重要な公共施設なので、計画立てて進めてほしい。	各学校の老朽化状況を踏まえながら、毎年、未来戦略推進プランなどに基づき、改築や大規模改修等を着実に実施していきます。 本計画の実効性を高めるため、5年後を目途に見直しを行い、学校改築や長寿命化改修等の計画を更新することを想定しています。
2	10年間の朝日中学校跡地、真和中学校跡地を有効に活用してほしい。	現時点では、両跡地とも学校改築以外での利用があることから、5年後の計画見直しを目途に、仮校舎等としての活用を具体化することを想定しております。
3	学校用地が狭く、小規模の学校が多いことが豊島区の学校の特徴だ。児童、生徒の増加に対応できるような確実な計画の実行をお願いしたい。	ご指摘の事項を踏まえながら、区長部局とも協議のうえ、着実な計画の実行を図ってまいります。

番号	ご意見等の内容	回答
4	建替え、リフォーム時にメンテナンスしやすいデザインとしてほしい。デザインもシンプルなものにしないとメンテナンスがやりにくく費用がかかる。震災が起きた時、修復に手間や費用が掛かる。シンプルで耐震性があり、修理、修復などメンテナンスがやりやすいうえ、外観もクリーム系やオフホワイトなど風格があり、人から親しまれたり、好かれる建物にすべきである。	ご意見のとおり、将来的な改修や他の教室等に転用する可能性も考慮しながら、学校施設の整備を進めてまいります。また、外観についても、地域のシンボルとして相応しい、通いたくなるような建物になるよう工夫してまいります。
5	建物の内部は国産材で木装化すべき。規模が大きくなければ国産材の木造建築物にすべき。木装化した建物は落ち着き、教育環境によい影響を与える。落ち着いた美しい空間なら人々はそれを大切にしようと思う。	過去の学校改築に際しては、内装材などに一定量の国産材を使用しております。今後の学校改築においても、コスト、メンテナンス、教育環境への影響などを総合的に勘案しながら、国産材の使用を進めてまいります。
6	災害時の避難所や救援センターの機能を担うため、バリアフリーへの対応は早急に必要だと感じる。	学校改築に際しては設計時からエレベーター設置を計画するなどにより、バリアフリーを実現いたします。改修時においても、スロープの設置や段差解消など可能な範囲でのバリアフリー化を目指してまいります。
7	長寿命化で延命のために約30億円かけるより、プラス17億円かけて改築し、校舎の寿命が80年以上になる学校施設を増やすべきである。	改築工事時の仮校舎確保が可能な学校は改築を進めてまいります。仮校舎の確保が見通せない学校については、老朽化対策と設備面のレベルアップを図る長寿命化改修の実施を検討してまいります。
8	障害のある方、赤ちゃん連れやペットと一緒にの方など、体育館など大きなスペースでの避難生活が難しい場合に備えて、個室などに転用できるよう教室内の備品などを全て収納できるようにすべき。	机・椅子などの大型備品の収納は困難ですが、改築する学校においては十分な収納スペースを確保するよう努めてまいります。

番号	ご意見等の内容	回答
9	トイレや体育館の冷暖房設備、手洗いの自動水栓などは停電時も使用できるのか心配である。	改築校については、避難スペース等として使用する体育館、保健室、1階のトイレなどは非常用発電設備により停電時も通電しますが、発電容量に制限があるため、保健室のみ冷暖房設備が使用可能です。
10	ICT教育を進めていくための基盤整備には児童・生徒全員分のタブレットを収納・充電できるように整備することが必要である。	タブレット端末については、各家庭に持ち帰って学習等に活用することが目的ですので、学校内での機器収納は想定しておりません。また、充電については、学校においても補完的に充電できる対応をしておりますが、原則として家庭での充電に協力をお願いしております。
11	学校の屋外プールは気温や天気に大きく左右され、利用期間も限られる。温水プールを検討し、区民も利用できるようにしてほしい。	学校プールを温水プール化することで、年間を通したプール利用が可能となりますが、初期コストが高額であり、また、維持管理費も高額になるなどの課題があります。今後、他自治体での先行事例などを踏まえながら、区民の皆様への開放も含めて、改築校での導入を検討します。
12	大規模化している学童クラブや子どもスキップについても部屋の確保が必要である。	改築する小学校については、子どもスキップの利用想定を踏まえながら、十分な面積を確保するよう努めてまいります。改築校以外の学校についても、必要に応じて校庭内に別棟を整備することなどにより対応してまいります。

番号	ご意見等の内容	回答
1 3	区立幼稚園の認定こども園化、区立保育園との分園型による認定こども園化は就学前の子どもが通う施設の選択肢が減るのではないかと心配だ。区立幼稚園と区立保育園の分園型認定こども園化は、公立園数の削減につながるので反対である。	豊島区教育委員会では、令和元年9月に発行した「豊島区教育ビジョン2019」において、区立幼稚園の認定こども園化を目指すこととしています。認定こども園は幼稚園と保育園の両方の機能を併せ持つ施設であり、多様な保護者のニーズに応えることができる施設であると考えています。区立幼稚園の認定こども園化にあたっては、区民の皆さまのご意見をいただきながら、検討を進めていきます。
1 4	P 3 2 「現時点においては具体的な統廃合の予定はありません」、P 3 3 「池袋本町小学校と池袋中学校のように」とあるがイメージが分かりにくい。	児童生徒数が増加傾向にあるため、小・中学校の数を減らす統廃合は予定しておりませんが、施設更新のコストやスケジュールの優位性や教育面での効果などを考慮のうえ、池袋本町小学校と池袋中学校のように小・中学校の校舎を同一敷地に一体的に整備することを検討してまいります。
1 5	高南小学校の別棟建設案では、必要教室数が令和5年で15、令和6年で16、令和8年で17となっていたが、計画案の推計値では13学級のまま推移している。千登世橋中も高南小も児童・生徒数が減少傾向になっているが、推計値が正しいか見直すべきである。	長寿命化計画においては、区内全域の各校におけるバランスを確保するため、令和3年5月時点の0歳から5歳児の人口数をもとに、平均的な区立小学校への入学率を踏まえて小学校の教室数や児童数を推計しています。 一方、高南小学校の別棟建設案に関する教育委員会資料については、近隣に大規模マンションが建設されることなどを考慮して推計をしています。 なお、中学校については、6歳から11歳の人口数をもとにして上記と同じ方法で推計しています。

番号	ご意見等の内容	回答
16	高南保育園の改築中、高南小学校に新たに建てる別棟を仮園舎にする案が検討されているが、生活サイクルが違う小学生と保育園児が同じ敷地内で過ごすことは小学生にとっても、保育園児にとっても、教師・保育士にとってもストレスがかかると思う。例えば園児数が減少している区立幼稚園を高南保育園建て替えの仮園舎として活用できないか検討してほしい。	敷地内別棟を仮園舎として利用することにより、小学校と保育園の区分が可能と考えております。頂いたご意見も踏まえ、今後も学校や保育園と十分協議しながら進めてまいります。また、高南保育園の近隣に区立幼稚園などの仮園舎地として相応しい用地がないため、高南小学校内の別棟を仮園舎とすることを予定しています。
17	仮校舎を整備可能な区有地がない高田、巢鴨地区について、仮校舎確保についてどのように考えているか、具体的に考えてほしい。	中長期的な視野で、区立施設の再構築の機会などを捉えながら、仮校舎地の確保を目指してまいります。
18	長寿命化改修を実施したとしても、いずれは改築が必要となる。仮校舎を確保するための土地は、突然降ってわいてこない。計画的に確保するようにどのような計画があるのか教えてほしい。	中長期的な視野で、区立施設の再構築の機会などを捉えながら、仮校舎地の確保を目指してまいります。
19	改築に47億円かかるということだが、適正価格なのか、わかりやすく説明してほしい。	平成26年度以降（目白小学校以降）の学校改築に要した経費を平均し、約47億円という想定値を算出しています。
20	教育環境の格差について、長寿命化改修で縮小を図っているつもりだろうが、工期が長ければ長いだけ、たくさんの児童が不便な環境下に置かれることになるので、その期間が児童の発達に及ぼす影響も考えるべきである。	仮校舎を設けずに長寿命化改修を行うことを前提としております。必要教室の確保や騒音・振動を低減するなど、教育現場への影響を最小限に止めるため、長期間の工期が想定されますが、ご意見の主旨を踏まえながら、工期短縮の可能性について検討してまいります。

番号	ご意見等の内容	回答
2 1	<p>土地や財政的な観点から、当計画に賛成である。</p> <p>未改築の学校の多くは、築年数が50年程度のものである。望ましい耐用年数を80年程度に設定していることも踏まえ、速やかに改築や長寿命化改修などによって施設を更新していくことが必要である。</p>	<p>改築においては仮校舎の確保という制限があり、長寿命化改修についても予算確保などの課題がありますが、ご指摘のとおり、極力早期に施設更新が可能となるよう、努力してまいります。</p>
2 2	<p>仮校舎の重要性について随所に記載があるが、豊島区内でのまとまった土地の確保は難しいように思われる。よって、仮校舎が不要な長寿命化改修についても、改築校と同様に具体的な実施校を明らかにしていくべきである。</p>	<p>改築の進捗状況や児童生徒数の状況などを踏まえながら、5年後の計画見直しにあわせて、具体的な長寿命化改修実施校を明らかにする予定です。</p>
2 3	<p>改築や長寿命化改修の順番が遅れてしまう学校に対して、教育環境の充実策や老朽化対策などのフォローが必要である。</p>	<p>計画の50ページに記載のとおり、教室のICT化や教育備品の整備などのフォロー策を検討してまいります。</p>
2 4	<p>学校は、子ども達の学びの場であるとともに、災害時の避難所になるなど、地域の重要な拠点である。</p> <p>学校関係者以外にも、地域の住民に丁寧な説明をお願いしたい。</p>	<p>学校改築においては、設計前に「建て替えを考える会」を開催し、地域住民や学校関係者からのご意見を踏まえた学校づくりを行ってまいりました。今後も地域の皆さまのご意見を踏まえながら、学校施設整備を進めてまいります。</p>

豊島区学校施設等長寿命化計画（案）について

1. 計画期間

令和4年度から令和13年度（10年間）
5年後の令和8年度を目途に改定を行う予定。

2. 対象施設

区立小学校（22校）、区立中学校（8校）、区立幼稚園（3園）

3. 老朽化への対応方針

以下の3手法を組み合わせて老朽化対策を推進する。

手法		内容	敷地外仮校舎	設備レベル	建物寿命
未改築校	改築	校舎を全て解体し、新たな校舎を整備	必要	新たな設備に更新する	新築（80年以上寿命あり）
	長寿命化改修	校舎を解体せず、躯体や設備の改修を集中的に実施	不要 （敷地内別棟整備も検討）	可能な限り改築に準じた設備に更新する	30年程度延命を図る
全校	その他改修	老朽化した外壁塗装・屋上防水や設備の一部を改修	不要	ほぼ向上なし	延命効果なし

4. 計画期間中の主な取り組み

（1）改築

- ・旧平和小学校を仮校舎として千川中学校や要小学校の改築を行う。
- ・旧朝日中学校を仮校舎とした周辺校の改築を検討する。

（2）長寿命化改修

- ・仮校舎候補地から距離がある学校施設について、長寿命化改修の実施を検討する。

（3）その他

- ・計画的な老朽化改修に加え、備品や設備の平準化を検討する。
- ・区立幼稚園の認定こども園化について検討する。
- ・校舎一体型の学校整備について検討する。

5. 計画策定に向けた今後のスケジュール

令和3年11月	計画案の報告（第4回定例会）
令和3年12月	パブリックコメントの実施
令和4年2月	パブリックコメントの結果報告（第1回定例会） 計画の公表

豊島区学校施設等長寿命化計画

SDGs 未来都市豊島区



豊島区は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

令和4年2月

豊島区
豊島区教育委員会

豊島区学校施設等長寿命化計画の策定にあたって

令和4年2月
豊島区教育委員会

豊島区立の学校施設の多くは、昭和30年代から昭和40年代の高度経済成長期に整備されています。

平成14年（2002年）に千登世橋中学校の改築工事が竣工して以来、令和4年度中に竣工予定の池袋第一小学校を含めて合計10校の改築が終了しますが、幼稚園も含めて、改築が終了していない学校施設が23箇所となっています。

未改築の学校施設については、定期的な改修を実施することで、建物の健全性を維持していますが、施設の老朽化は着実に進行しています。

区立小中学校と幼稚園に通う子どもたちが、平等に質の高い教育を受けるためには、施設環境の充実が欠かせません。また、学校施設は災害時の避難所としての機能を担う地域の中心的な施設であることから、社会インフラとしての安全性を確保する必要があります。

さらに、今後の学校施設のあり方を考えていくうえで、新型コロナウイルスなど感染症対策やバリアフリーへの対応などを考慮していくことも大切です。

学校施設の老朽化に伴う諸課題に取り組むとともに、施設環境の格差の解消によって、教育環境の公平性を確保していくためには、学校改築を可能な限り速やかに進めていくことが求められますが、改築に係る経費やスケジュール、工事中の仮校舎確保などの条件を踏まえると、長期的な視野で改築に取り組まざるを得ません。

短期的・中期的な課題解決のためには、学校改築と並行して、学校施設の健全性と設備のレベルアップを図る「長寿命化改修」を新たに取り入れていくことが必要です。

これまでに文部科学省から示された指針等も踏まえ、計画的な学校改築や改修によって、区立学校施設における教育環境の公平性確保と公共施設としての健全性確保を実現するため、このたび「豊島区学校施設等長寿命化計画」を策定しました。

今後の計画推進に際しては、豊島区が令和2年7月に「SDGs未来都市」に選定されたことを踏まえ、学校施設固有の諸課題の解決とともに、学校施設の持続可能性や環境負荷の軽減などSDGsの観点から、改築や改修に取り組んでいくことが重要です。また、本区において学校改築を計画する際には、敷地外に仮校舎を設ける必要があるため、仮校舎用地の確保は継続して取り組むべき長期的な課題です。

学校施設は子どもたちをはじめ、区民の皆さまに開かれた施設です。多くの方に本計画をお読みいただき、学校施設のあり方についてご一考いただければ幸いです。

豊島区学校施設等長寿命化計画 目次

第1章 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

1-1 計画策定の背景と目的	1
1-2 計画期間	4
1-3 対象とする施設	5

第2章 学校施設の現状

2-1 学校施設の運営状況等	7
2-2 学校施設の老朽化状況	17
2-3 学校改築の経緯	26
2-4 学校施設整備等に関する経費の推移	27

第3章 学校施設整備の基本方針

3-1 今後の学校施設整備について	30
3-2 学校改築における仮校舎について	34
3-3 施設の更新手法について	36
3-4 長寿命化改修工事の概要	39

第4章 計画期間中の改築・長寿命化改修等について

4-1 改築計画	46
4-2 長寿命化改修計画	49
4-3 その他の修繕及び改修計画	50

第5章 本計画のフォロー体制

5-1 日常点検の充実	51
5-2 施設情報システムの有効活用	53
5-3 コスト縮減の継続的な検討	53
5-4 公共施設等総合管理計画との連携	54
5-5 計画の定期的な見直し	54

巻末資料

資料1 学校施設長寿命化計画策定委員会 委員名簿及び検討経過	55
資料2 豊島区における学校統廃合及び改築の実績	57

第1章 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

1-1 計画策定の背景と目的

学校施設は将来を担う子どもたちが学び、生活する場であり、災害時には地域住民の避難場所としての役割も果たします。したがって、学校施設を適切に管理して、安心安全な状態を維持していくことが非常に重要です。

また、時代のニーズや要請にあわせた教育環境を整えていくため、学校施設の躯体や設備を適切に更新していく必要があります。

平成25年11月、国土交通省が国内のインフラの老朽化対策を目的として、「インフラ長寿命化基本計画」を策定し、これを受けて平成27年3月に文部科学省は同省所管のインフラ等に関する長寿命化計画（行動計画）を策定しました。

国は、これまでの計画等を踏まえ、各自治体の個別施設の老朽化対策を目的とした計画を策定するよう要請しており、その中で、コストの縮減や環境負荷の低減などのため、長寿命化改修の検討を求めています。

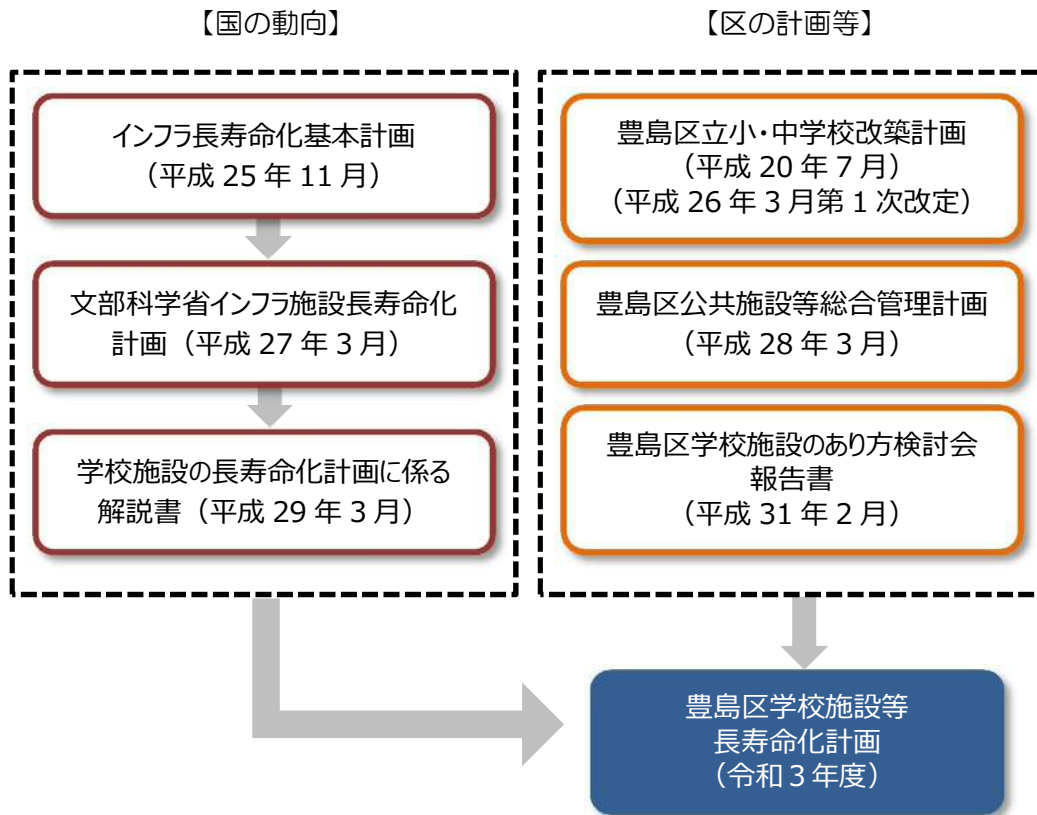
豊島区においては、平成27年度に「公共施設等総合管理計画」を策定するなど、計画的な公共施設の改修・修繕を実施しています。また、学校施設については、「豊島区立小・中学校改築計画」に基づき、着実に学校改築を進めるとともに、損傷が軽微なうちから機能の回復を図るために修繕などを行う予防保全の考え方に基づいて計画的な施設改修を実施していますが、国からの要請も踏まえ、長寿命化改修も含めた老朽化対策や施設更新を今後も計画的に進めていくことを目的として、「豊島区学校施設等長寿命化計画」（以下、「本計画」とする。）を策定します。検討経過は図表1及び図表2の通りです。

本計画については、区の基本計画及び令和2年8月に策定された「東京都豊島区SDGs未来都市計画」との整合性を確保することに加え、既定の改築計画や、平成30年度に取りまとめた「豊島区学校施設のあり方検討会 報告書」も参考にしています。

また、小学校における35人学級を段階的に実施する方針や、バリアフリー法及び同法施行令改正に伴う学校施設におけるバリアフリー化の推進など、学校施設に係る国の動向も本計画に反映しています。

豊島区学校施設等長寿命化計画策定までの流れ

図表 1



豊島区学校施設等長寿命化計画に関する検討経過

図表 2

年 月	事 項
平成 20 年 7 月	【豊島区】小・中学校改築計画 策定 ○西池袋中学校、目白小学校、池袋第三小学校、池袋本町小学校（統合校）、池袋中学校、巣鴨北中学校の 6 校の改築決定
平成 25 年 11 月	【国】インフラ長寿命化基本計画 策定 ○国土交通省がインフラの老朽化対策を目的に策定 ○各自治体に総合管理計画および個別施設計画の策定を要請
平成 26 年 3 月	【豊島区】小・中学校改築計画 第一次改訂 ○改築校に池袋第一小学校、千川中学校の 2 校を追加
平成 27 年 3 月	【国】文部科学省インフラ施設長寿命化計画（行動計画） 策定 ○各自治体に学校施設の老朽化対策を目的とした計画を策定することを要請
平成 28 年 3 月	【豊島区】公共施設等総合管理計画 策定 ○区が保有および管理する建物施設およびインフラ施設に関する今後 30 年間の中長期的な管理計画を策定
平成 29 年 12 月 ～平成 31 年 1 月	【豊島区】学校施設のあり方検討会 開催 ○長寿命化を含めた今後の学校施設のあり方について、有識者、小・中学校長、P T A などの意見を踏まえて検討
平成 31 年 2 月	【豊島区】学校施設のあり方検討会 報告書 ○としまスーパーリニューアル（長寿命化改修）の検討 ○これまでの改築・改修事例のまとめ
令和 2 年 2 月～ 令和 3 年 9 月	【豊島区】学校施設長寿命化計画策定委員会 開催 (計 9 回開催)
令和 4 年 月	【豊島区】学校施設等長寿命化計画の策定

※平成 20 年度以前は、豊島区立小・中学校の適正化第 1 次整備計画（平成 9 年 1 月策定
平成 13 年 9 月改訂）に基づき、学校改築を実施してきた。

1-2 計画期間

本計画の期間は、令和4年度～令和13年度までの10年間とします。

ただし、区の基本計画との連動を確保し、財政状況の動向や、園児・児童・生徒数の推移といった教育環境を取り巻く変化に柔軟に対応するため、5年目の令和8年度を目途に本計画の見直しを行います。

また、計画期間における各年度の整備の進捗や工事費・設計費などの詳細については、未来戦略推進プランにより公表していきます。

1-3 対象とする施設

本計画における対象施設は、図表3の通り小学校22校、中学校8校、幼稚園3園の計33施設とします。このうち平成9年1月策定の「豊島区立小・中学校の適正化 第1次整備計画」及び平成20年7月策定の「豊島区立小・中学校改築計画」に基づいて、改築済及び改築予定の学校施設は小学校5校、中学校6校となっています。

図表 3

対象となる学校施設一覧

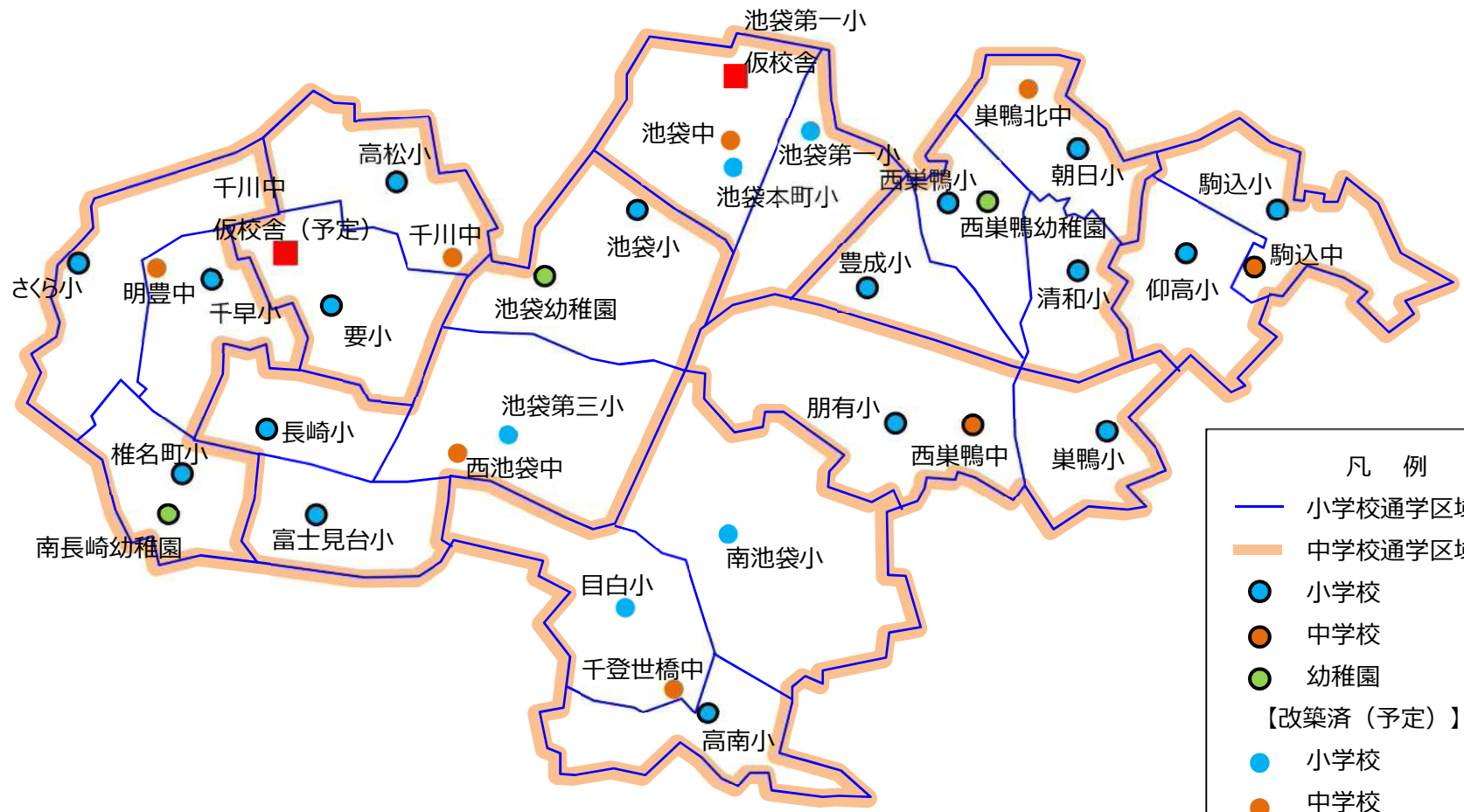
対象学校		所在地	改築（予定）年度	
幼稚園	01	西巣鴨幼稚園	西巣鴨 2-14-11	
	02	池袋幼稚園	池袋 3-30-22	
	03	南長崎幼稚園	南長崎 4-12-7	
小学校	01	仰高小学校	駒込 5-1-19	
	02	駒込小学校	駒込 3-13-1	
	03	巣鴨小学校	南大塚 1-24-10	
	04	清和小学校	巣鴨 3-14-1	
	05	西巣鴨小学校	西巣鴨 1-27-1	
	06	豊成小学校	上池袋 1-18-24	
	07	朋有小学校	東池袋 4-40-1	
	08	朝日小学校	巣鴨 5-33-1	
	09	池袋第一小学校	新校舎予定地：上池袋 4-28-1 仮校舎：池袋本町 4-36-1	R4（現在工事中）
	10	池袋本町小学校	池袋本町 1-43-1	H28
	11	池袋第三小学校	西池袋 3-14-3	H28
	12	池袋小学校	池袋 4-23-8	
	13	南池袋小学校	南池袋 3-18-12	H15
	14	高南小学校	高田 2-12-7	
	15	目白小学校	目白 2-11-6	H26
	16	長崎小学校	長崎 2-6-3	
	17	要小学校	要町 2-3-20	
	18	椎名町小学校	南長崎 4-30-5	
	19	富士見台小学校	南長崎 1-10-5	
	20	千早小学校	千早 3-33-5	
	21	高松小学校	高松 2-57-22	
	22	さくら小学校	長崎 6-16-1	
中学校	01	駒込中学校	駒込 4-5-1	
	02	巣鴨北中学校	西巣鴨 3-17-1	R1
	03	西巣鴨中学校	南大塚 3-18-1	
	04	池袋中学校	池袋本町 1-43-1	H28
	05	西池袋中学校	西池袋 4-7-1	H24
	06	千登世橋中学校	目白 1-1-1	H13
	07	千川中学校	高松 1-9-21	R8（予定）
	08	明豊中学校	長崎 5-31-29	H17

※白抜き字の学校は改築済み校（改築工事中、改築予定を含む）

※各小学校敷地内に整備した子どもスキップ、学校敷地内に整備された備蓄倉庫等についても、学校施設と一体的に改築や改修を検討することから、本計画の対象施設とします。

本計画対象となる学校施設位置図

図表 4



凡 例

- 小学校通学区域
- 中学校通学区域
- 小学校
- 中学校
- 幼稚園

【改築済（予定）】

- 小学校
- 中学校
- 仮校舎

第2章 学校施設の現状

2-1 学校施設の運営状況等

(1) 小学校の状況

① 児童数の推移および将来推計

【実績値】

豊島区の小学校 22 校における合計児童数は、図表 5～7 の通り平成 13 年の 7,107 人から令和 3 年の 9,055 人と、20 年間で 1,948 人（約 27%）増加しています。

学校別にみると、児童数の最も多い小学校は平成 16 年～平成 28 年は目白小学校でしたが、平成 29 年以降は文成小学校と池袋第二小学校とを統合した池袋本町小学校となり、令和 3 年では 812 人となっています。

一方で最も児童数が少ない小学校は、平成 16 年から令和 2 年では朝日小学校でしたが、令和 3 年は池袋小学校の 237 人となっています。

【将来推計】

住民基本台帳の 0～5 歳の人口や過去の入学率等を踏まえて推計すると、区全体の人口が増加傾向であることから、図表 5～7 の通り合計児童数は令和 3 年の 9,055 人から令和 9 年の 9,560 人と 6 年間に 505 人（約 6%）増加すると予想されます。

小学校児童数の推移と将来推計（人）

図表 5

	実績値													
	平成 13 年	平成 14 年	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	
仰高小学校	265	267	267	297	310	313	341	367	378	404	396	390	386	
駒込小学校	373	378	368	351	335	358	335	327	312	313	297	305	334	
巣鴨小学校	205	178	175	171	165	178	199	215	223	237	240	231	232	
清和小学校	298	309	321	344	372	389	408	398	401	380	386	380	374	
西巣鴨小学校	236	235	205	214	186	190	175	176	201	210	218	237	257	
豊成小学校	232	230	212	210	213	229	255	274	300	304	307	307	296	
朋有小学校	431	414	375	388	393	420	444	466	487	503	509	485	467	
朝日小学校	200	194	184	159	145	137	144	132	124	127	131	119	122	
池袋第一小学校	289	286	281	283	309	313	336	339	329	350	351	358	339	
池袋本町小学校	584	567	535	505	502	484	473	461	461	458	476	473	488	
池袋第三小学校	355	352	338	317	290	274	256	256	256	273	277	293	281	
池袋小学校	421	397	381	360	325	313	293	293	288	279	255	239	234	
南池袋小学校	415	398	401	401	396	412	413	450	469	449	458	454	479	
高南小学校	213	195	178	173	178	172	175	168	189	205	205	212	234	
目白小学校	435	490	533	541	577	607	585	559	531	544	545	532	544	
長崎小学校	188	176	183	170	176	175	165	167	147	154	155	160	196	
要小学校	341	321	297	301	315	330	325	318	314	308	296	267	289	
椎名町小学校	305	281	313	328	321	311	298	284	266	257	258	260	264	
富士見台小学校	280	289	266	249	250	276	267	278	290	295	297	288	281	
千早小学校	305	301	311	317	339	344	362	382	390	382	357	346	343	
高松小学校	362	387	394	396	418	422	439	443	457	454	436	433	436	
さくら小学校	374	361	369	358	385	403	416	408	387	361	343	345	350	
合 計	7,107	7,006	6,887	6,833	6,900	7,050	7,104	7,161	7,200	7,247	7,193	7,114	7,226	

第2章 学校施設の現状

	実績値								推計値					
	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	令和 6年	令和 7年	令和 8年	令和 9年
仰高小学校	369	364	357	363	346	333	339	346	347	356	382	383	401	413
駒込小学校	343	349	412	426	458	445	466	494	514	544	560	578	579	571
巣鴨小学校	237	239	267	284	286	297	317	330	313	324	347	357	330	336
清和小学校	392	399	418	404	412	408	382	403	400	392	372	367	375	384
西巣鴨小学校	272	284	283	319	341	349	372	365	363	363	353	366	350	336
豊成小学校	306	321	357	370	382	396	399	415	403	417	432	429	443	440
朋有小学校	473	471	448	463	470	485	503	518	523	553	590	631	667	682
朝日小学校	120	145	153	178	178	196	226	242	261	262	276	280	273	254
池袋第一小学校	354	365	347	334	316	301	266	288	288	299	290	285	274	256
池袋本町小学校	478	487	544	591	663	721	776	812	823	783	744	711	667	615
池袋第三小学校	302	298	307	358	402	444	461	497	514	522	536	542	560	564
池袋小学校	240	264	262	266	269	281	256	237	259	259	280	279	285	302
南池袋小学校	456	442	453	502	520	514	527	539	532	558	581	610	621	637
高南小学校	255	249	258	317	331	344	335	371	399	382	385	384	378	372
目白小学校	562	597	594	584	600	599	600	575	572	566	558	543	493	479
長崎小学校	195	215	230	237	243	250	257	253	255	268	301	305	310	317
要小学校	304	308	325	352	351	364	361	374	381	374	378	362	361	360
椎名町小学校	264	279	281	284	309	308	327	363	374	394	409	436	433	435
富士見台小学校	272	266	288	305	316	327	352	344	348	358	367	412	418	441
千早小学校	321	310	330	332	326	342	338	336	335	311	325	330	328	331
高松小学校	446	458	486	495	525	536	552	556	544	567	585	596	626	616
さくら小学校	350	353	364	377	379	380	393	397	404	410	410	428	422	419
合計	7,311	7,463	7,764	8,141	8,423	8,620	8,805	9,055	9,152	9,262	9,461	9,614	9,594	9,560

※実績値は「豊島区の教育」による。R3は5月1日現在の児童数

特別支援学級や日本語学級の児童を含む。

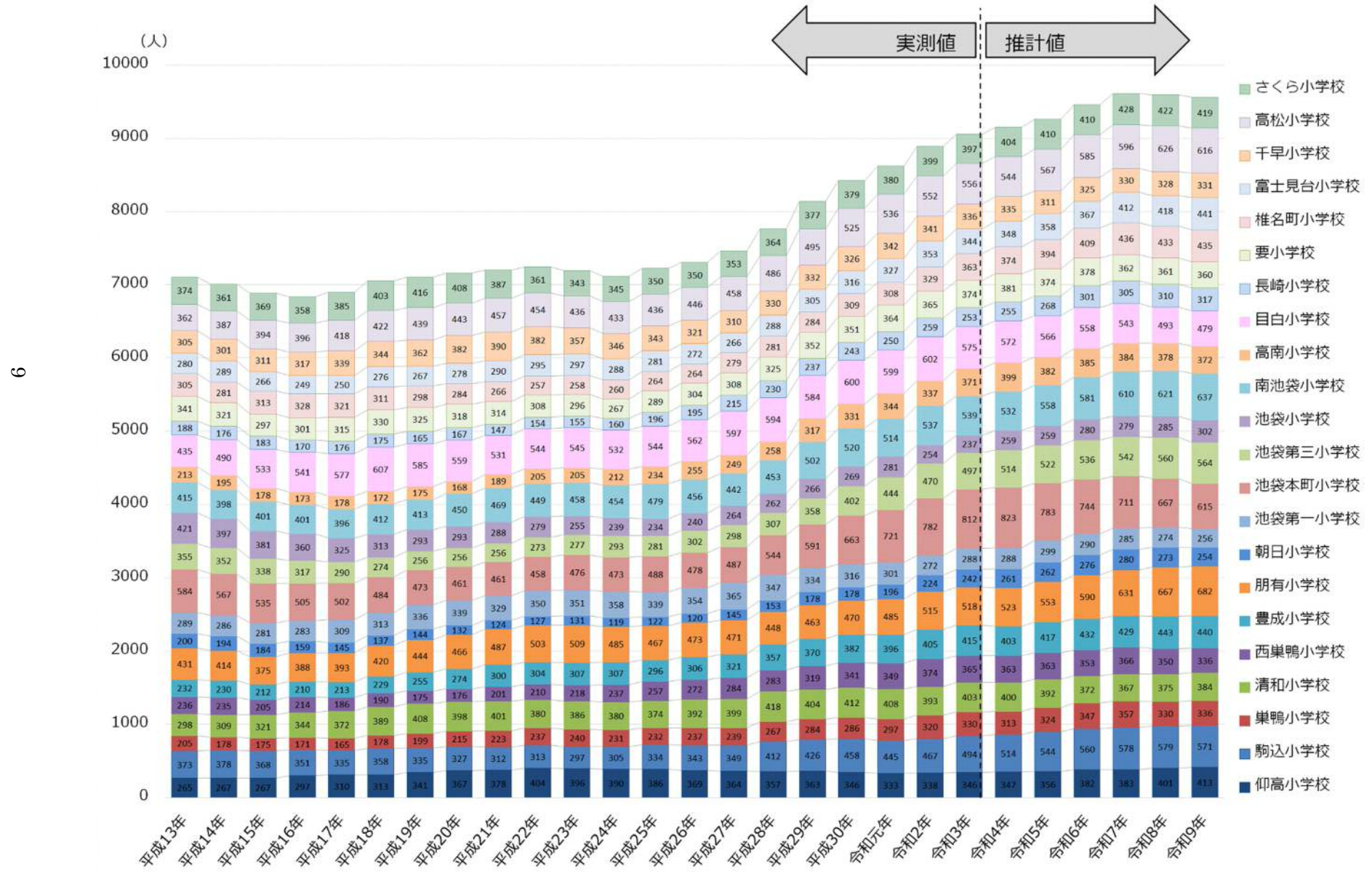
※推計値は0～5歳児の人口及び過去の入学率などをもとに推計したもの。

※H13年度以降の小学校統合の経緯は以下の通り。(旧小学校の児童数は統合小学校に含む)

- ・ 朋有小学校（平成15年に時習小学校と大塚台小学校が統合）
- ・ 池袋本町小学校（平成26年に池袋第二小学校と文成小学校が統合）
- ・ 池袋小学校（平成17年に大明小学校と池袋第五小学校が統合）
- ・ さくら小学校（平成14年に千川小学校と大成小学校が統合）

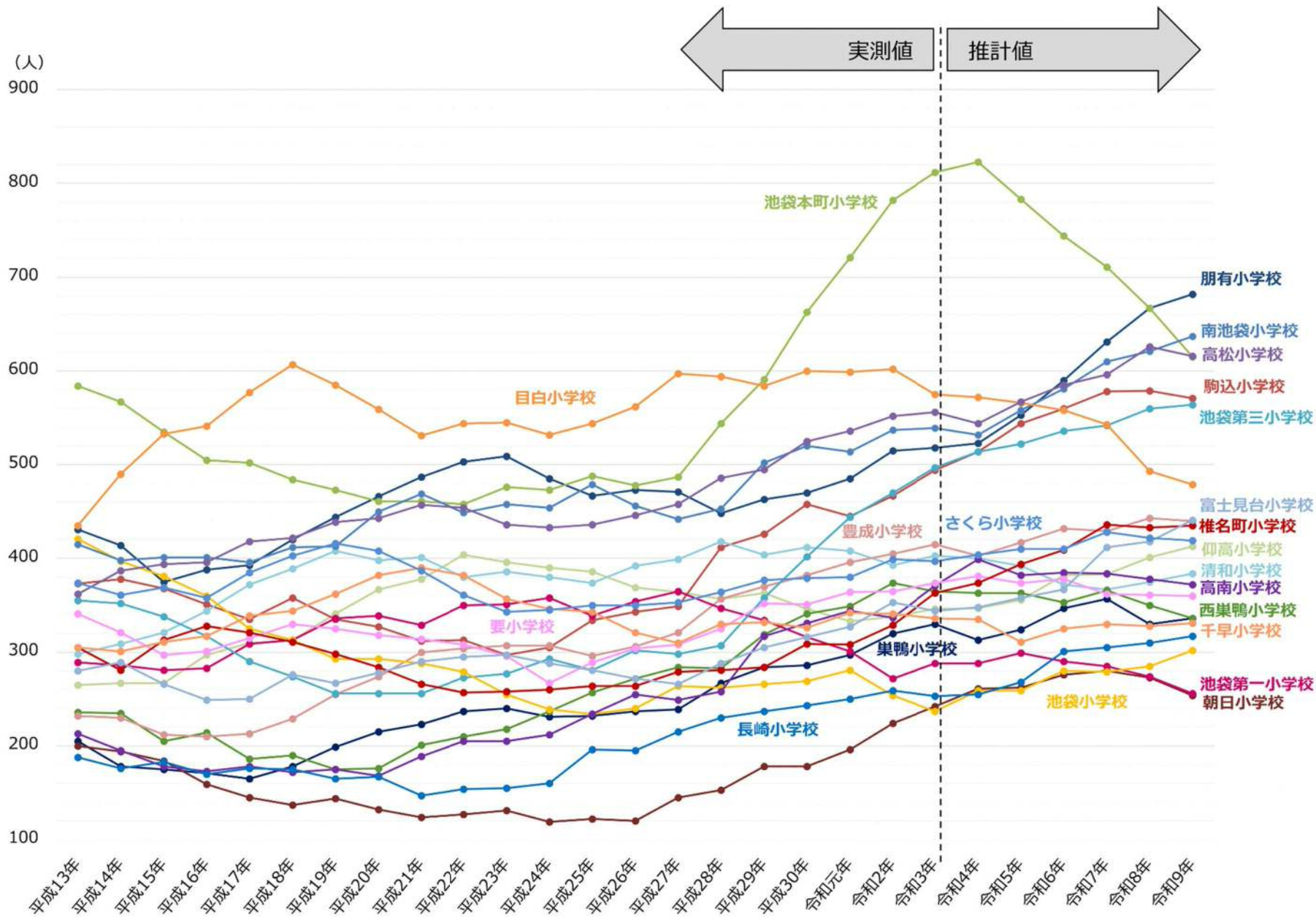
小学校児童数の推移と将来推計

図表 6



小学校児童数の推移と将来推計

図表 7



②学級数の推移および将来推計

【実績値】

豊島区の小学校 22 校における合計学級数は、図表 8 の通り平成 13 年の 270 学級から令和 3 年の 323 学級と、20 年間に 53 学級増加しています。

学校別にみると、学級数の最も多い小学校は平成 18 年～平成 20 年は目白小学校、平成 21 年～平成 26 年は南池袋小学校、平成 27 年～平成 29 年は再び目白小学校でしたが、平成 29 年以降は池袋本町小学校で令和 3 年では 24 学級となっています。

一方、平成 13 年以降で学級数が少ない小学校は、朝日小学校、長崎小学校、高南小学校、巣鴨小学校でしたが、平成 28 年以降で最も少ないのは朝日小学校であり、令和 3 年では 8 学級となっています。

【将来推計】

住民基本台帳の 0～5 歳の人口や過去の入学率等を踏まえて推計すると、合計学級数は図表 8 の通り令和 3 年の 323 学級から令和 9 年の 360 学級と 6 年間に 37 学級増加すると予想されます。

図表 8

小学校学級数の推移と将来推計（学級）

	実績値												
	平成 13 年	平成 14 年	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年
仰高小学校	13	14	14	15	15	15	16	16	16	16	16	16	15
駒込小学校	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11	11	11	12
巣鴨小学校	7	6	6	6	6	6	7	7	7	8	9	8	8
清和小学校	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	13	12	12
西巣鴨小学校	10	9	8	8	8	8	8	8	9	10	11	12	13
豊成小学校	8	10	10	8	7	10	12	12	14	13	13	13	13
朋有小学校	21	21	13	13	14	14	15	16	16	17	18	19	19
朝日小学校	7	7	7	6	6	6	6	6	7	8	9	9	9
池袋第一小学校	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
池袋本町小学校	20	20	18	17	18	17	17	17	17	17	16	17	20
池袋第三小学校	13	13	13	14	12	10	10	9	9	10	11	12	12
池袋小学校	19	21	21	21	17	17	16	12	15	14	13	14	13
南池袋小学校	12	12	15	15	15	16	17	14	20	19	21	20	21
高南小学校	8	7	7	7	7	6	6	6	7	7	8	8	9
目白小学校	13	14	15	16	17	18	18	18	18	18	18	17	17
長崎小学校	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	9	10	12
要小学校	14	13	14	14	14	14	14	14	13	13	13	12	12
椎名町小学校	11	11	12	12	12	12	11	10	11	11	11	11	11
富士見台小学校	10	10	11	9	11	11	11	10	11	11	12	12	11
千早小学校	11	12	12	12	12	12	13	12	15	15	15	15	15
高松小学校	12	12	12	12	12	12	13	14	13	13	12	12	13
さくら小学校	18	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	13	13
合計	270	267	263	259	257	258	264	255	272	274	283	285	292

	実績値								推計値						
	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	令和 6年	令和 7年	令和 8年	令和 9年	
仰高小学校	12	12	12	12	12	12	12	12	12	13	14	14	15	15	
駒込小学校	12	11	14	14	15	14	15	15	16	17	17	18	18	18	
巣鴨小学校	9	9	9	10	11	11	12	12	12	12	13	13	12	12	
清和小学校	13	13	14	13	13	13	12	13	13	13	13	13	13	13	
西巣鴨小学校	13	13	12	13	15	15	16	16	16	16	16	16	16	16	
豊成小学校	13	14	15	15	15	16	16	14	14	15	16	17	18	18	
朋有小学校	19	16	16	16	17	19	19	19	21	22	24	25	26	27	
朝日小学校	9	10	7	7	7	7	8	8	9	10	11	12	12	12	
池袋第一小学校	13	13	12	12	12	11	11	11	11	12	12	12	11	11	
池袋本町小学校	17	16	17	18	20	22	23	24	24	23	22	22	21	20	
池袋第三小学校	13	13	13	15	16	17	18	18	19	19	20	20	20	20	
池袋小学校	13	16	18	18	18	18	17	17	19	19	20	20	20	20	
南池袋小学校	20	21	15	16	18	18	19	18	18	19	20	21	21	22	
高南小学校	9	10	11	12	12	12	12	12	13	13	13	13	13	13	
目白小学校	20	23	19	18	18	18	19	19	19	19	19	19	17	16	
長崎小学校	12	14	11	11	10	12	13	12	12	13	14	14	14	14	
要小学校	12	12	12	14	14	14	15	15	15	15	15	15	15	15	
椎名町小学校	11	12	12	12	12	11	11	13	13	14	15	16	15	15	
富士見台小学校	11	11	11	12	12	12	13	12	12	12	12	13	14	15	
千早小学校	15	15	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	
高松小学校	14	15	15	16	17	17	18	18	18	19	19	20	21	21	
さくら小学校	12	12	13	12	13	13	13	13	13	13	14	15	15	15	
合計	292	301	290	298	309	314	324	323	331	340	351	360	359	360	

※実績値は「豊島区の教育」による。特別支援学級や日本語学級を含む。

※推計値は0～5歳児の人口及び過去の進学率などをもとに推計したもの。

※段階的に35人学級を実施することを踏まえて推計している。

(2) 中学校の状況

①生徒数の推移および将来推計

【実績値】

豊島区の中学校8校における合計生徒数は、図表9・10の通り平成13年の3,009人から令和3年の2,675人と20年間に334人（約12%）減少しています。

学校別にみると、生徒数の最も多い中学校は、平成13年～平成21年は千登世橋中学校、平成22年～平成26年は西池袋中学校、千登世橋中学校、巣鴨北中学校など、平成27年以降は西池袋中学校であり、令和3年では485人となっています。

一方で最も少ない中学校は平成13年～平成18年は西巣鴨中学校、平成19年～平成26年は駒込中学校や西巣鴨中学校、平成27年～令和元年は千川中学校でしたが、令和3年では駒込中学校の178人が最少となっています。

【将来推計】

学区内の6～11歳の人口や過去の入学率等を踏まえて推計すると、合計生徒数は図表9・10の通り令和3年の2,675人から令和9年の2,971人と6年間に296人（約11%）増加すると予想されます。

図表 9

中学校生徒数の推移と将来推計（人）

	実績値													
	平成 13年	平成 14年	平成 15年	平成 16年	平成 17年	平成 18年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	
駒込中学校	245	235	207	195	194	200	190	193	198	211	221	213	225	
巣鴨北中学校	399	349	327	311	292	274	300	367	438	474	455	432	446	
西巣鴨中学校	241	198	180	163	146	158	192	206	201	200	210	227	226	
池袋中学校	395	405	397	417	427	433	392	352	329	322	311	284	290	
西池袋中学校	485	443	407	423	383	323	322	366	401	367	359	392	431	
千登世橋中学校	425	463	477	485	456	452	461	434	442	432	455	454	430	
千川中学校	333	293	291	294	302	279	264	254	281	314	328	324	262	
明豊中学校	486	443	386	355	361	400	419	389	362	356	366	374	361	
合計	3,009	2,829	2,672	2,643	2,561	2,519	2,540	2,561	2,652	2,676	2,705	2,700	2,671	

	実績値								推計値						
	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	令和 6年	令和 7年	令和 8年	令和 9年	
駒込中学校	232	245	239	224	221	226	198	178	171	177	180	178	188	194	
巣鴨北中学校	446	426	375	315	289	308	381	442	464	464	475	478	491	501	
西巣鴨中学校	242	253	281	264	260	231	232	240	241	242	242	233	248	268	
池袋中学校	272	287	275	316	302	303	300	309	332	349	383	384	373	370	
西池袋中学校	495	492	473	473	496	503	496	485	477	489	479	505	498	521	
千登世橋中学校	399	414	411	413	392	390	387	382	375	372	373	374	381	384	
千川中学校	237	223	228	206	185	191	221	237	234	236	242	262	265	272	
明豊中学校	364	343	341	326	326	346	372	402	412	422	420	423	456	461	
合計	2,687	2,683	2,623	2,537	2,471	2,498	2,587	2,675	2,706	2,751	2,794	2,837	2,900	2,971	

※実績値は「豊島区の教育」による。特別支援学級の生徒を含む。

R3は5月1日現在の生徒数。

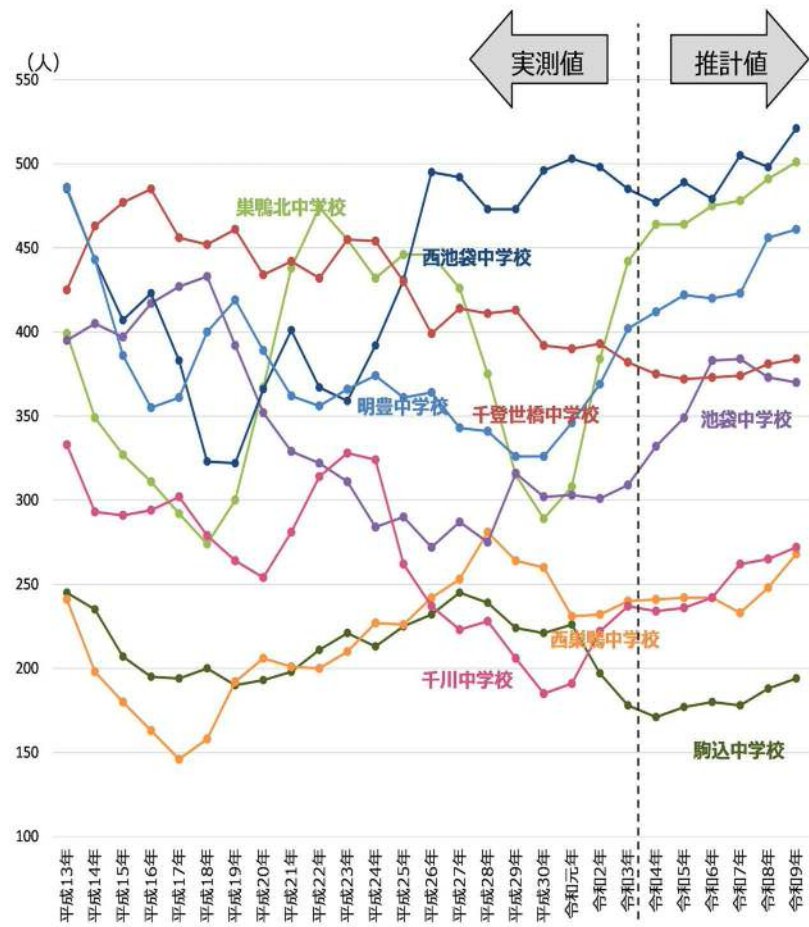
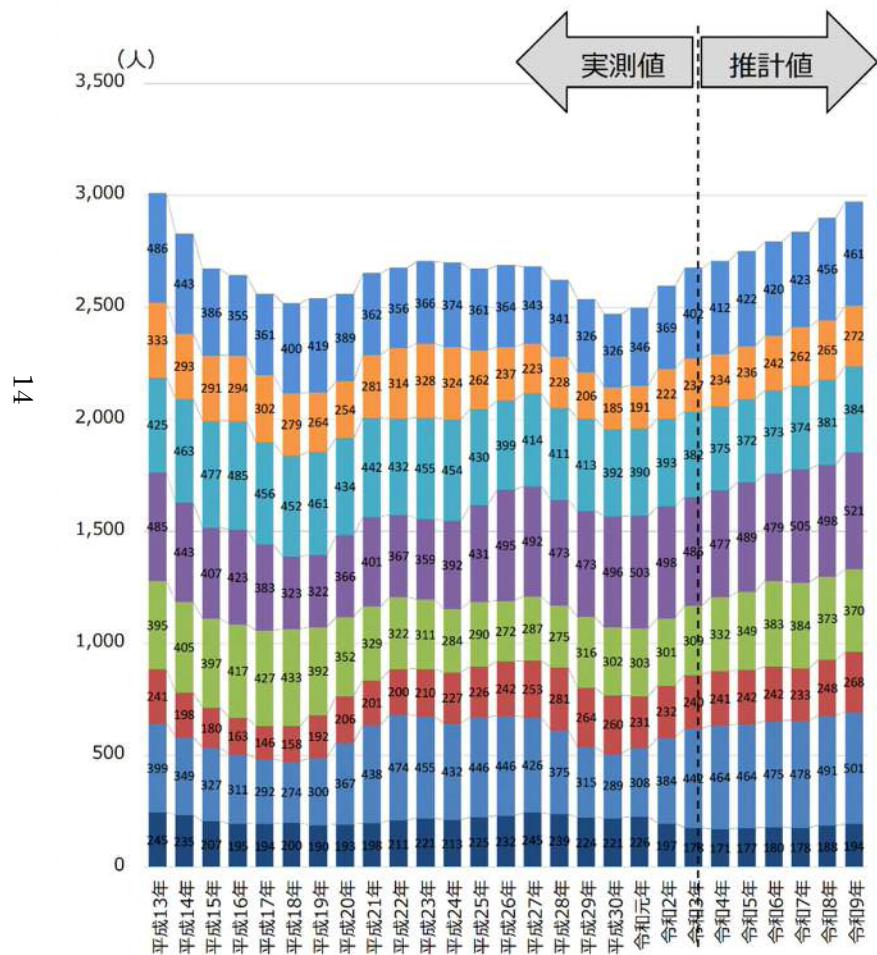
※推計値は6～11歳児の人口及び過去の入学率などをもとに推計したもの。

※H13年度以降の中中学校統合の経緯は以下の通り。(旧中学校の生徒数は統合中学校を含む)

- ・西池袋中学校（平成17年に道和中学校と真和中学校が統合）
- ・明豊中学校（平成16年に第十中学校と千早中学校、平成18年に長崎中学校が統合）

中学校生徒数の推移と将来推計

図表 10



②学級数の推移および将来推計

【実績値】

豊島区の中学校 8 校における合計学級数は、図表 11 の通り平成 13 年の 95 学級から令和 3 年の 84 学級と 20 年間に 11 学級減少しています。

学校別にみると、学級数の最も多い中学校は平成 24 年以降は西池袋中学校であり、令和 3 年では 16 学級となっています。

一方で最も少ない中学校は平成 13 年以降は概ね駒込中学校であり、令和 3 年では 6 学級となっています。

【将来推計】

住民基本台帳の 6～11 歳の人口や過去の入学率等を踏まえて推計すると、合計学級数は図表 11 の通り令和 3 年の 84 学級から令和 9 年の 94 学級と 6 年間に 10 学級増加すると予想されます。

中学校学級数の推移と将来推計（学級）

図表 11

	実績値												
	平成 13 年	平成 14 年	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年
駒込中学校	7	7	6	6	6	6	6	6	6	6	7	7	8
巣鴨北中学校	12	12	11	10	10	9	10	12	14	15	14	13	14
西巣鴨中学校	8	7	7	7	7	8	8	8	8	8	8	8	7
池袋中学校	12	12	12	12	12	12	11	10	9	9	9	9	9
西池袋中学校	17	17	17	16	12	11	12	12	14	13	12	13	14
千登世橋中学校	12	13	13	13	12	12	12	12	12	12	13	13	13
千川中学校	11	10	10	10	9	8	8	8	11	12	12	12	10
明豊中学校	16	16	14	12	12	12	12	11	10	11	12	11	11
合計	95	94	90	86	80	78	79	79	84	86	87	86	86

	実績値							推計値						
	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和 元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年
駒込中学校	7	8	8	8	7	7	6	6	6	6	6	6	6	6
巣鴨北中学校	14	14	12	11	10	11	12	14	14	14	15	16	17	17
西巣鴨中学校	8	9	11	13	13	8	8	8	9	9	9	8	9	10
池袋中学校	9	8	8	9	9	9	9	9	10	11	12	12	11	11
西池袋中学校	15	17	16	16	16	16	17	16	15	16	16	17	16	17
千登世橋中学校	12	13	12	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11
千川中学校	11	10	10	9	9	6	7	7	7	7	8	9	9	9
明豊中学校	11	10	10	9	9	10	11	12	12	12	12	12	13	13
合計	87	89	87	87	85	79	82	84	84	86	89	91	92	94

※実績値は「豊島区の教育」による。特別支援学級の生徒を含む。

※推計値は 6～11 歳児の人口及び過去の入学率などをもとに推計したものの。

(3) 幼稚園の状況

① 園児数の推移

豊島区の幼稚園3園における合計園児数は、図表12の通り平成13年の149人から増加して平成29年には169人とピークを迎えましたが、その後減少し、令和3年では70人となっています。

各幼稚園の園児数をみると、いずれもほぼ30～50人台で推移しています。

南長崎幼稚園は他の2園より園児数が若干少ない状態が続いていましたが、令和3年では西巣鴨幼稚園と池袋幼稚園が22人と最も少なくなっています。

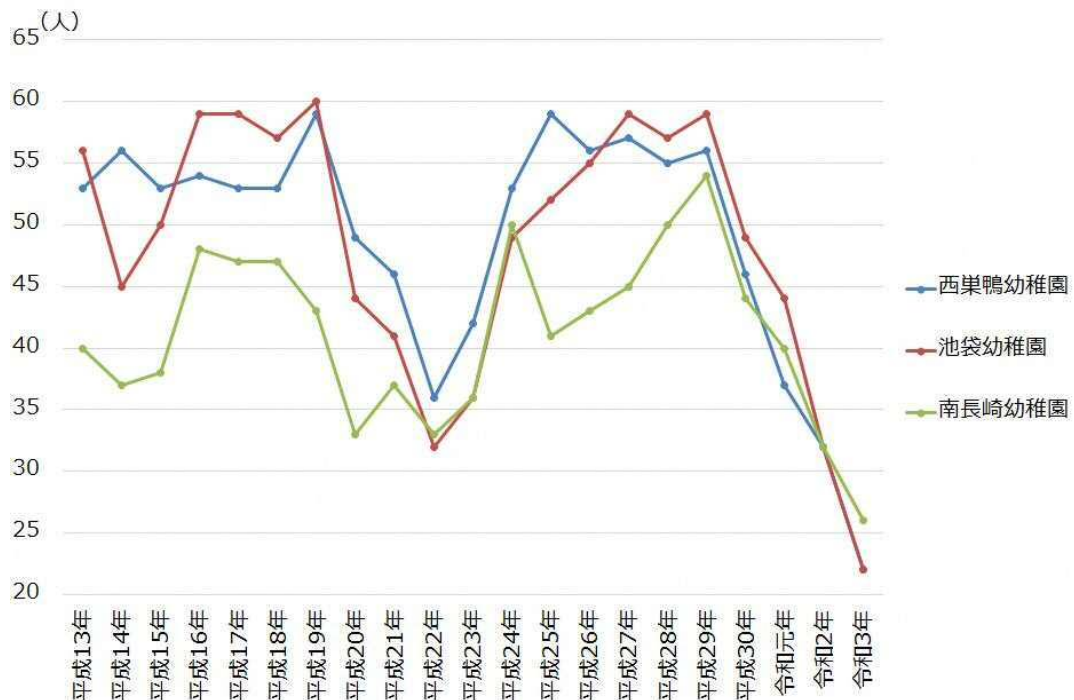
図表 12

幼稚園園児数の推移（人）

	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
西巣鴨幼稚園	53	56	53	54	53	53	59	49	46	36
池袋幼稚園	56	45	50	59	59	57	60	44	41	32
南長崎幼稚園	40	37	38	48	47	47	43	33	37	33
合計	149	138	141	161	159	157	162	126	124	101

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
西巣鴨幼稚園	42	53	59	56	57	55	56	46	37	32	22
池袋幼稚園	36	49	52	55	59	57	59	49	44	32	22
南長崎幼稚園	36	50	41	43	45	50	54	44	40	32	26
合計	114	152	152	154	161	162	169	139	121	96	70

※「としま政策データブック」による。



2-2 学校施設の老朽化状況

(1) 学校施設の保有状況

豊島区の学校施設の総延床面積は約 17.9 万㎡（令和 3 年 1 月現在）で、そのうち築 50 年以上の学校施設は各校の最も古い棟を基準とすると全体の 58%、平均築年数（※）を基準とすると約 45%を占めています。また、築 20 年未満の学校施設については、「豊島区立小・中学校の適正化 第 1 次整備計画」及び「豊島区立小・中学校改築計画」などに基づき改築を行った学校施設となっています。

豊島区立学校施設の一覧表

図表 13

学校施設名	住 所	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	最古棟の 竣工年度 (築年数)	平均築年数 (年)
仰高小学校	駒込 5-1-19	6,453	4,016	S47 (49)	49
駒込小学校	駒込 3-13-1	6,802	5,586	S39 (57)	51
巣鴨小学校	南大塚 1-24-10	6,793	5,354	S33 (63)	53
清和小学校	巣鴨 3-14-1	7,107	4,615	S36 (60)	53
西巣鴨小学校	西巣鴨 1-27-1	9,615	4,741	S33 (63)	54
豊成小学校	上池袋 1-18-24	6,224	5,376	S48 (48)	48
朋和小学校	東池袋 4-40-1	7,425	5,462	S40 (56)	51
朝日小学校	巣鴨 5-33-1	7,409	4,316	S40 (56)	52
池袋第一小学校	新校舎予定地： 上池袋 4-28-1 仮校舎： 池袋本町 4-36-1	改 築 中			
池袋本町小学校	池袋本町 1-43-1	12,335	9,073	H28 (5)	5
池袋第三小学校	西池袋 3-14-3	6,402	6,739	H28 (5)	5
池袋小学校	池袋 4-23-8	7,198	5,454	S38 (58)	48
南池袋小学校	南池袋 3-18-12	9,948	8,116	S62 (34)	20
高南小学校	高田 2-12-7	5,745	4,603	S34 (62)	51
目白小学校	目白 2-11-6	8,420	7,766	H26 (7)	7
長崎小学校	長崎 2-6-3	7,165	5,497	S38 (58)	49
要小学校	要町 2-3-20	8,403	4,887	S39 (57)	52
椎名町小学校	南長崎 4-30-5	7,432	5,473	S33 (63)	56
富士見台小学校	南長崎 1-10-5	7,365	4,562	S44 (52)	45
千早小学校	千早 3-33-5	7,185	4,875	S43 (53)	51
高松小学校	高松 2-57-22	10,540	5,837	S41 (55)	49
さくら小学校	長崎 6-16-1	8,709	4,751	S44 (52)	50
小学校 計		164,675	117,099		

学校施設名	住 所	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	最古棟の 竣工年度 (築年数)	平均築年数 (年)
駒込中学校	駒込 4-5-1	7,742	5,171	S33 (63)	51
巣鴨北中学校	西巣鴨 3-17-1	12,970	9,371	R01 (2)	2
西巣鴨中学校	南大塚 3-18-1	7,566	6,657	S34 (62)	55
池袋中学校	池袋本町 1-43-1	12,335	7,919	H28 (5)	5
西池袋中学校	西池袋 4-7-1	12,486	7,877	H24 (9)	9
千登世橋中学校	目白 1-1-1	11,764	8,103	H13 (20)	20
千川中学校	高松 1-9-21	9,321	6,960	S36 (60)	55 (改築予定)
明豊中学校	長崎 5-31-29	10,138	8,345	H17 (16)	16
中学校 計		84,322	60,403		

学校施設名	住 所	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	最古棟の 竣工年度 (築年数)	平均築年数 (年)
西巣鴨幼稚園	西巣鴨 2-14-11	1,162	419	S45 (51)	51
池袋幼稚園	池袋 3-30-22	984	411	S48 (48)	48
南長崎幼稚園	南長崎 4-12-7	1,038	381	S47 (49)	49
幼稚園 計		3,184	1,211		

※平均築年数の算出方法

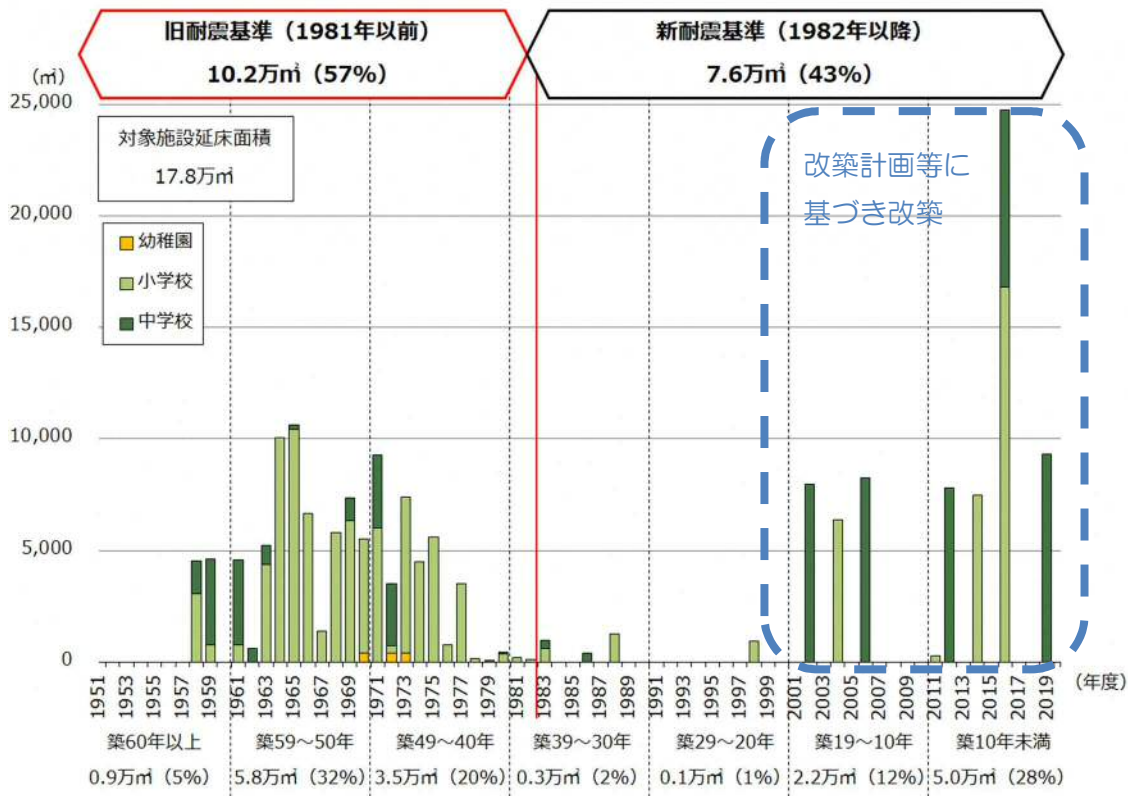
棟ごとの築年数をもとに学校施設全体に占める延床面積の割合で算出した年数

(例) A棟 : 築60年・2000㎡ B棟 : 築30年・1000㎡

$$\rightarrow 60 \times 2000 / 3000 + 30 \times 1000 / 3000 = 50 \text{ 年}$$

棟ごとの築年数別保有延床面積

図表 14



※倉庫等の小規模な建物は除く。

※池袋第一小学校は策定時点では改築工事中のため除く。

※旧耐震基準の学校施設については、すべて耐震改修工事を実施済みであり、基準となる耐震強度を確保している。

(2) 学校施設の耐用年数

今後の学校改築などを計画化するためには、建物の目標耐用年数を想定することが必要となります。文部科学省の「学校施設の長寿命化改修の手引き」において、「物理的な耐用年数は、適切な維持管理がなされ、コンクリート及び鉄筋の強度が確保される場合には70～80年程度、さらに、技術的には100年以上持たせるような長寿命化も可能である」としています。これらを踏まえ、学校施設の目標耐用年数については「建築物の耐久計画に関する考え方」（日本建築学会）を参考とし、図表15・16の考え方とします。

建築物全体の望ましい目標耐用年数の級

図表 15

用途	構造種別	鉄筋コンクリート造		鉄骨造		
		鉄骨鉄筋コンクリート造		重量鉄骨		軽量鉄骨
		高品質の場合	普通の品質の場合	高品質の場合	普通の品質の場合	
学校・官公庁		Y100 以上	Y60 以上	Y100 以上	Y60 以上	Y40 以上
住宅・事務所・病院		Y100 以上	Y60 以上	Y100 以上	Y60 以上	Y40 以上
店舗・旅館・ホテル		Y100 以上	Y60 以上	Y100 以上	Y60 以上	Y40 以上
工場		Y40 以上	Y25 以上	Y40 以上	Y25 以上	Y25 以上

出典：建築物の耐久計画に関する考え方（日本建築学会）

目標耐用年数の級の区分の例

図表 16

級	目標耐用年数		
	代表値	範囲	下限値
Y150	150 年	120～200 年	120 年
Y100	100 年	80～120 年	80 年
Y60	60 年	50～80 年	50 年
Y40	40 年	30～50 年	30 年
Y25	25 年	20～30 年	20 年

出典：建築物の耐久計画に関する考え方（日本建築学会）



望ましい耐用年数	
鉄筋コンクリート造	鉄骨造
80 年	80 年

(3) 各学校施設の老朽化状況の評価内容について

豊島区では予防保全の考え方を基本として計画的な改修工事を行ってきました。全ての学校施設（改築校は除く）で耐震改修工事を実施しており、長年未改修で放置されている施設はなく、法定点検結果などに基づく応急修繕も適宜実施していることから、学校施設の健全性はおおむね保たれていると考えられます。

しかし、17 ページに記載した通り、各学校施設の築年数が経過しているため、客観的な指標に基づき、各施設の状態を把握しておく必要があります。そこで、各施設の老朽化状況について、学校施設台帳や耐震診断報告書を参考に、築年数、圧縮強度、中性化深さなどを総合的に分析し、各施設の老朽化状況を評価しました。なお、既存の改築計画等に基づき、改築済及び改築予定の学校施設は評価対象施設から除くこととします。

① 築年数の評価

各学校施設は、複数の棟で構成されていることが多く、各棟の築年数は異なっています。しかし、改築及び改修は学校単位で行うことが多いため、評価も学校単位で行う必要があります。したがって、各学校施設の最も古い校舎の築年数に加え、17 ページに示した各棟の平均築年数を算出した築年数を基に評価しました。

② コンクリートの圧縮強度の評価

文部科学省の「学校施設の長寿命化改修の手引き」において、コンクリート圧縮強度が 13.5N/mm²以下の建物を試算上「改築」とすることが示されていることを踏まえて評価します。コンクリートの圧縮強度とは、建物に使用されたコンクリートがどれくらいこの重さに耐えられるかを示したものです。

構造躯体の健全性評価に用いるコンクリート圧縮強度は、過去の耐震化工事で基礎資料とした耐震診断報告書において採用された値としますが、階ごとに異なるなど、複数の診断強度がある場合はそれらの最低値を採用しました。また、診断報告書に採用値が明記されていない建物については、東京都建築士事務所協会の「実務のための耐震診断マニュアル」を参考に、各階の試験値を基に標準偏差を考慮した計算を行い、採用値を決定しました。

〈標準偏差値及び採用値の算出方法〉

$$\text{標準偏差値} : \{ \sum (\text{圧縮強度} - \text{平均圧縮強度})^2 / N \}^{1/2}$$

$$\text{採用値} : \text{平均圧縮強度} - \text{標準偏差} \times 1/2$$

③ 中性化の深さの評価

躯体のコンクリートは本来アルカリ性ですが、空気中の炭酸ガスなどの作用により中性化が進行すると、内部の鉄筋が錆びやすい状況となり、錆がひどくなると躯体のコンクリート破損につながることから、中性化により鉄筋コンクリート造の建物の耐久性が低下すると考えられます。

評価するにあたり、土木学会の「コンクリート標準示方書」を参考に、過去の調査結果から現在の中性化深さを推定し、現状推定値を算出しました。

〈算出方法〉

定数＝中性化深さ/√調査時の築年数

現在の中性化深さ＝定数√築年数

(4) 老朽化状況評価一覧

未改築の各学校施設について、老朽化状況評価の概要は図表 18 の通りです。

建物の老朽化状況評価

図表 18

学校施設名	建物の老朽化状況						
	最古棟の整備年度 (築年数)	平均築年数 (年)	圧縮強度 (N/mm ²)	中性化(壁)			
				調査年度	中性化深さ (mm)	定数	現状推定値 (mm)
西巣鴨幼稚園	S45 (51)	51	16.3	H8	3.1	0.61	4.3
南長崎幼稚園	S47 (49)	49	19.3	H30	2.7	0.40	2.8
池袋幼稚園	S48 (48)	48	14.2	H15	34.4	6.28	43.5
仰高小学校	S47 (49)	49	19.9~20.3	H12	7.0	1.35	9.2
駒込小学校	S39 (57)	51	15.2~17.7	H10	24.5	4.40	32.3
巣鴨小学校	S33 (63)	53	14.2~24.3	H13	7.3	1.27	9.3
清和小学校	S36 (60)	53	17.7~21.1	H12	2.4	0.43	3.1
西巣鴨小学校	S33 (63)	54	19.1~22.0	H12	15.8	2.75	20.2
豊成小学校	S48 (48)	48	16.6~22.4	H16	8.6	1.52	10.6
朋有小学校	S40 (56)	51	12.2~18.4	H8	23.8	4.76	33.7
朝日小学校	S40 (56)	52	13.1~14.6	H7	10.6	2.04	14.9
池袋小学校	S38 (58)	48	15.5~17.7	H12	14.0	2.63	18.5
高南小学校	S34 (62)	51	14.2~40.4	H12	21.0	3.83	27.4
長崎小学校	S38 (58)	49	17.3~20.5	H13	18.0	3.34	23.4
要小学校	S39 (57)	52	14.5~31.8	H10	5.6	1.02	7.4
椎名町小学校	S33 (63)	56	13.9~19.8	H12	19.7	3.33	24.9
富士見台小学校	S44 (52)	45	19.2~19.4	H15	8.6	1.60	10.9
千早小学校	S43 (53)	51	16.0~19.2	H13	4.8	0.85	6.1
高松小学校	S41 (55)	49	12.7~18.7	H11	14.0	2.51	18.3
さくら小学校	S44 (52)	50	12.4~17.0	H11	8.0	1.51	10.7
駒込中学校	S33 (63)	51	14.4~17.0	H15	55.5	9.66	69.0
西巣鴨中学校	S34 (62)	55	14.5~23.0	H17	6.3	0.98	7.4

※白抜き字は老朽化していると評価される値

(5) 各項目の調査評価

① 築年数の評価

豊島区では築50年を経過した学校施設が多く、増築などにより複数の棟で構成され各棟の築年数は異なっていますが、改築及び改修は学校ごとに行うことが通例であるため、評価も学校単位で行う必要があります。各学校の最も古い校舎の築年数と、各棟の平均築年数を算出し、築50年を超える学校施設を図表19に示します。

図表 19

学校毎の最も古い校舎棟

学校施設名	最も古い校舎棟
	築年数(年)
巣鴨小学校	63
西巣鴨小学校	63
椎名町小学校	63
駒込中学校	63
高南小学校	62
西巣鴨中学校	62
清和小学校	60
池袋小学校	58
長崎小学校	58
駒込小学校	57
要小学校	57
朋有小学校	56
朝日小学校	56
高松小学校	55
千早小学校	53
富士見台小学校	52
さくら小学校	52
西巣鴨幼稚園	51

学校毎の平均築年数

学校施設名	平均築年数(年)
椎名町小学校	56
西巣鴨中学校	55
西巣鴨小学校	54
巣鴨小学校	53
清和小学校	53
朝日小学校	52
要小学校	52
駒込中学校	51
駒込小学校	51
朋有小学校	51
高南小学校	51
千早小学校	51
西巣鴨幼稚園	51
さくら小学校	50

② コンクリートの圧縮強度の評価

コンクリートの圧縮強度が 13.5N/mm^2 以下の建物は、文部科学省の基準によると「要調査」建物として「改築」として試算することが明記されており、重要な指針となっています。コンクリート圧縮強度の数値を確定するにあたり、各学校施設が増築等のため複数の棟で構成されていることを考慮し、最小値を目安とし 13.5N/mm^2 未満の学校施設を図表 20 に示します。

コンクリートの圧縮強度が 13.5N/mm^2 以下の学校施設

図表 20

学校施設名	延床面積 (全体)	圧縮強度 (N/mm^2)	延床面積 (13.5 未満の棟)
朋有小学校	5,462 m^2	12.2~18.4	3,866 m^2
さくら小学校	4,751 m^2	12.4~17.0	3,163 m^2
高松小学校	5,837 m^2	12.7~18.7	5,388 m^2
朝日小学校	4,316 m^2	13.1~14.6	1,544 m^2

③ 中性化の深さの評価

中性化深さの評価においては、通常、柱や梁部の調査結果を基に耐久性が確保できているか判断しますが、過去の耐震改修設計の際などに実施した中性化の調査結果は壁の値となっています。よって、評価は参考としての位置づけになりますが、壁のコンクリートのかぶり厚は概ね 20mm であることを踏まえ、中性化深さの推定結果が 20mm 以上の学校施設を図表 21 に示します。中性化が進むと、内部の鉄筋が錆びる可能性があるため、改築や改修などによる対策が相応しいと考えられます。

中性化深さの推定結果が 20mm 以上の学校施設

図表 21

学校施設名	中性化深さの推定結果 (壁) (mm)
駒込中学校	69.0
池袋幼稚園	43.5
朋有小学校	33.7
駒込小学校	32.3
高南小学校	27.4
椎名町小学校	24.9
長崎小学校	23.4
西巣鴨小学校	20.2

2-3 学校改築の経緯

豊島区では昭和30年代以降、児童・生徒数の減少傾向が続いたことから、平成9年に策定した「豊島区立小・中学校の適正化 第1次整備計画」に基づき、小・中学校の統廃合を行うとともに、統合した学校施設などを中心に改築を進めてきました。

学校改築については、平成20年に策定した「豊島区立小・中学校改築計画」に基づき、計画的に進めており、令和3年度までに小学校4校、中学校5校の改築を終えています。なお、改築工事中は、教育環境の確保のため、例外なく、敷地外に仮校舎を設けています。

平成14年度以降、改築済及び改築計画のある学校施設は図表22のとおりです。

図表 22

学校施設	竣工年度	統廃合	仮校舎
千登世橋中学校	平成13年度	高田中学校・雑司谷中学校	雑司谷中学校
南池袋小学校	平成15年度	高田小学校・雑司谷小学校・日出小学校	高田小学校
明豊中学校	平成17年度	千早中学校・第十中学校・長崎中学校	第十中学校
西池袋中学校	平成24年度	道和中学校・真和中学校	旧真和中学校
目白小学校	平成26年度		旧真和中学校
池袋本町小学校	平成28年度	池袋第二小学校・文成小学校	旧文成小学校
池袋中学校	平成28年度		なし(※)
池袋第三小学校	平成28年度		旧真和中学校
巣鴨北中学校	令和元年度	大塚中学校・朝日中学校	旧朝日中学校
池袋第一小学校	令和4年度 (予定)		旧文成小学校
千川中学校	令和8年度 (予定)		旧平和小学校 (予定)

※池袋本町小学校との連携校の竣工後、旧校舎を解体し、グラウンドを整備した。



巣鴨北中学校（令和元年竣工）



池袋第一小学校（令和4年竣工予定）

2-4 学校施設整備等に関する経費の推移

平成13年度～令和2年度の20年間において、学校施設への年間合計投資コストは図表25の通り5.0億円（平成18年度）～104.4億円（平成28年度）で推移しており、平均すると27.8億円/年度となっています。直近の10年間では、約387億円の経費を投じています。

平成13年度から令和2年度の10年間の改築コストは、平均すると18.3億円/年度、大規模改修コスト（老朽化のための施設改修コスト）は平均すると7.7億円/年度、その他投資的経費（学級増のための教室改修、トイレの洋式化、体育館空調整備などのコスト）は平均すると1.8億円/年度となっています。

過去10年間の平均割合は、図表23の通り改築コスト65.9%、大規模改修コスト27.8%、その他投資的経費6.3%で、改築コストが全体の2/3を占めています。

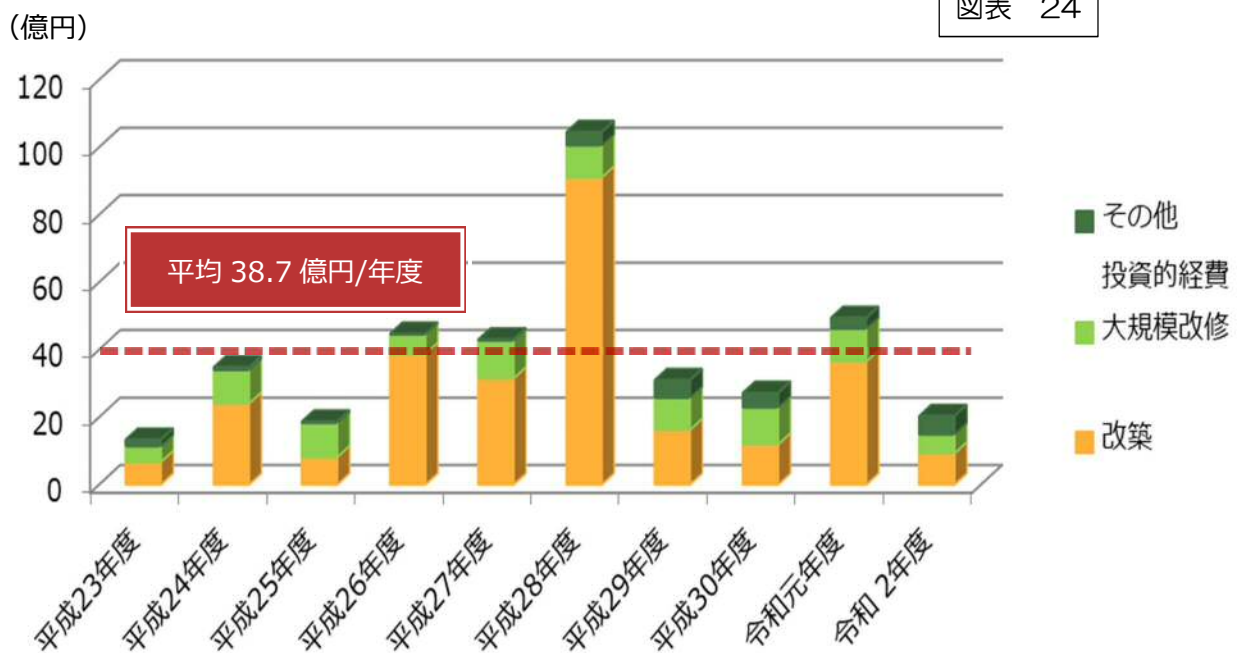
平成23年度～令和2年度（10年間）の合計投資コスト

図表 23

項目	合計金額 (百万円)	年間平均金額 (百万円/年)	割合 (%)
合計	38,674	3,867	100.0
改築コスト	27,442	2,744	70.9
大規模改修コスト	8,656	866	22.4
その他投資的経費	2,576	258	6.7

平成23年度～令和2年度（10年間）の合計投資コストの推移

図表 24



図表 25

単位：百万円

年度	改築	大規模改修	その他投資的 経費	合計	備考
平成13年度	2,174	647		2,821	実績値
平成14年度	944	795	102	1,840	
平成15年度	2,121	614		2,735	
平成16年度	784	699	100	1,583	
平成17年度	1,701	659	105	2,466	
平成18年度		318	187	504	
平成19年度		491	49	540	
平成20年度	163	948	58	1,169	
平成21年度	454	998	181	1,633	
平成22年度	778	585	185	1,547	
平成23年度	674	464	191	1,329	
平成24年度	2,409	985	83	3,476	
平成25年度	816	1,015	36	1,867	
平成26年度	3,880	569	19	4,468	
平成27年度	3,154	1,115	32	4,300	
平成28年度	9,109	947	393	10,449	
平成29年度	1,622	950	522	3,094	
平成30年度	1,198	1,086	432	2,716	
令和元年度	3,653	965	323	4,941	
令和2年度	927	560	545	2,032	

豊島区では、平成14年に竣工した千登世橋中学校から令和元年に竣工した巣鴨北中学校まで、合計9校の改築工事を実施してきました。

学校改築事業は、多大なコストと時間を投資する巨大プロジェクトであるため、コスト管理や、最新の学習環境を整えることに加え、地域の拠点として相応しい施設とするための工夫が重要です。

豊島区では、地域住民や学校関係者の意見を改築内容に反映するため、設計着手前に、「建替えを考える会」を開催し、約1年間の協議を実施しています。また、設計はプロポーザル方式を採用することで、設計事業者の創意工夫ある提案内容を引き出し、周辺環境との調和なども踏まえた魅力ある学校改築を進めています。

一方、改築に伴うコストについては、東日本大震災による復興需要やオリンピックによる建設需要などに伴う資材費や人件費などの高騰により、年々増加傾向にあります。これまでも、国や都の補助金や学校施設整備のための基金活用など、区財政への負担の軽減と平準化を図ってきましたが、引き続き、コストの縮減のための創意工夫を重ねていく必要があります。

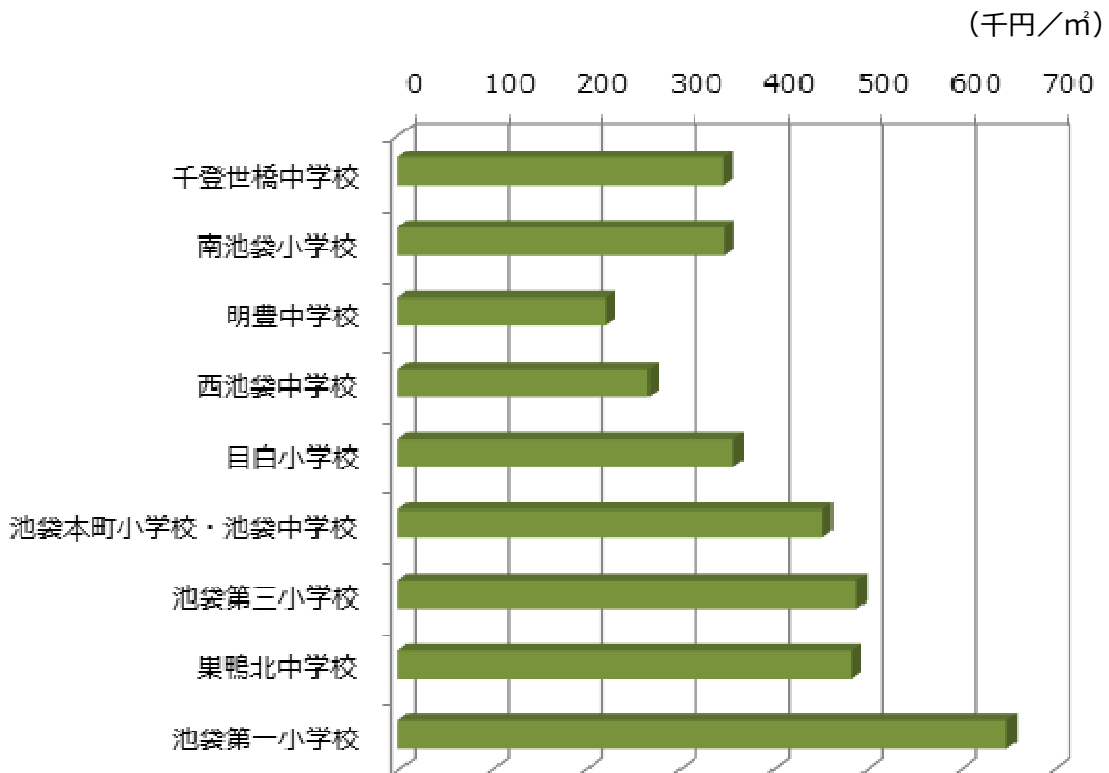
以下に過去に実施した学校改築のコストを示します。

改築校の竣工時期・延床面積・改築工事費・㎡単価

図表 26

学校名	竣工時期	延床面積 (㎡)	改築工事費 (億円)	㎡単価 (千円)
千登世橋中学校	H14.2	8,160	28	348
南池袋小学校	H16.3	6,665	23	349
明豊中学校	H18.2	8,345	19	222
西池袋中学校	H24.7	8,011	22	268
目白小学校	H26.10	7,766	29	358
池袋本町小学校・ 池袋中学校	H28.6	16,992	88	454
池袋第三小学校	H28.12	7,354	36	490
巣鴨北中学校	R1.6	9,682	47	485
池袋第一小学校	R4 (予定)	7,827	51	650

※延床面積は、改築棟の面積のため、学校全体の延床面積とは一致しない場合があります。



第3章 学校施設整備の基本方針

3-1 今後の学校施設整備について

(1) これまでの取り組み

豊島区では、平成14年度に竣工した千登世橋中学校以来、23区内でも先導的に学校改築を進めてきました。

計画的な学校改築を進めていくために、平成20年7月に「豊島区小・中学校改築計画」、平成25年3月に「豊島区小・中学校改築計画 第一次改訂」を策定し、令和4年8月までの池袋第一小学校を含めると小学校5校、中学校5校、区立小中学校の1/3の改築が終了することになります。

学校改築にあたっては、校内のICT環境の整備や学習情報センター（児童・生徒の主体的・協働的な学びをICT機器などにより支援する図書館機能）整備を初めとした学びの拠点の充実はもとより、放課後対策事業の充実、エコスクール化の推進、防災拠点としての機能、地域交流の場としての機能を充実させてきました。

一方、改築を実施していない学校施設においては、設備等の劣化状況や耐用年数に応じた大規模改修を実施しつつ、学校トイレの洋式化や体育館の冷暖房整備などの設備のレベルアップを全校一斉に取り組むなど、学校施設の環境改善を全国に先駆けて取り組んできました。

(2) 今後の学校施設整備の課題

これまでの取り組みや前提条件などを踏まえながら、持続的かつ継続的に学校施設を管理運営していくためには、以下の①～⑦の課題に取り組む必要があります。

① 質の高い教育の実現

豊島区では、児童・生徒の学習にICTを活用する「GIGAスクール構想」の基盤とするため、令和2年度に全ての小・中学生に一人一台のタブレットパソコンを配布するなど、教育のICT化に向けた取り組みを推進しています。施設においても、タブレットパソコンにより効果的なICT教育を進めていくための基盤整備が必要です。

また、近年の児童数が増加する中で小学校における35人学級の段階的な実施を求められていることも踏まえ、計画的に教室数を確保していくことも重要です。

② 仮校舎の確保

学校改築を進めていくうえでは、工事中の仮校舎が不可欠です。豊島区の都市環境を踏まえると、仮校舎用地の確保は大変困難で、かつ最も重要な課題の一つです。仮校舎の確保は区長部局と連携を図りつつ取り組みを継続していく必要があります。

③ バリアフリー化への対応

高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）及び同法施行令の改正を受けて、文部科学省から示された「学校施設におけるバリアフリー化の一層の推進について」（令和2年12月）により、今後改築する学校だけでなく、既存の学校施設のバリアフリー化の整備が求められています。

学校施設は、災害時には区の救援センターになることも鑑み、学校改築や長寿命化改修にあわせながら、学校施設のバリアフリー化を実施する必要があります。

④ 防災機能の強化

学校施設は区の救援センターとして位置付けられており、災害時には避難所としての機能を担います。「②」に記載したバリアフリー化の推進とあわせて、様々な防災機能が充実するような施設づくりが必要です。

⑤ 学校用地の積極的な拡張

豊島区の学校施設は、他自治体と比較して、用地が狭いのが現状ですが、教育環境や地域防災の観点から、学校施設において十分な広さの校地を確保することが重要です。また、改築や改修においても十分な敷地面積があれば、自由度の高いレイアウトを実現することができます。

これまでに池袋本町地区小中連携校や池袋第一小学校で進めてきたように、都区財政調整制度において校地取得の区負担の軽減が図られていることを踏まえて、学校隣地の取得を積極的に進め、学校用地の拡張を目指していきます。

⑥ 感染症対策への配慮

子どもたちの安全・安心な学習環境を整えるためには、新型コロナウイルス対策など、感染症対策に配慮した学校づくりを推進する必要があります。

改築工事や改修工事の際には、手洗いの自動水栓化や換気設備の充実など、感染症対策を強化することを検討していきます。また、定期的に空調機器の分解洗浄を実施するなどの維持管理の面においても工夫をしていきます。

⑦ CO₂排出量の削減

政府は2030年度（令和12年度）における温室効果ガスの排出量を、2013年度（平成25年度）比で46%削減する目標を掲げています。豊島区でも環境基本計画において、2030年度における温室効果ガスの排出量を、2013年度比で39%削減する目標を掲げています。目標達成に寄与するため、SDGsの目標13「気候変動に具体的な対策を」の考え方を踏まえながら、改築や改修にあわせて建物全体の断熱化により省エネ化を図るとともに、高効率な省エネ機器の採用を推進していきます。

⑧ 区立幼稚園の認定こども園化

区立幼稚園の園児数は減少傾向にあり、令和3年度は3園合計で70名（充足率38.9%）となりました。共働き世帯の増加や幼児教育・保育の無償化、待機児童対策の強化に伴う私立保育園の増加などが背景にあると考えられます。

今後は、「教育ビジョン2019」を踏まえ、近隣の区立幼稚園と区立保育園との分園型による認定こども園化を検討していきます。また、公共施設の再構築や学校改築などの機会にあわせて、施設一体型認定こども園も検討していきます。

(3) 今後の学校施設整備の考え方について

① 学校の適正配置

豊島区では過去に実施してきた区立小・中学校の適正配置により、小学校は29校から22校、中学校は13校から8校になりました。しかし、近年では、小学校を中心に児童生徒数の増加が見られ、教室数を確保するための施設改修を毎年実施している状況です。したがって、現時点においては、具体的な統廃合の予定はありません。

今後の学校の適正規模や配置については、将来的な人口動態などを加味し、必要に応じて検討していきます。

② 持続的な施設整備のためのコスト管理

学校教育は持続的に、切れ目なく展開していくべきものです。学校施設の整備についても持続的に実施していく必要があります。

そのためには、施設整備の財源を計画的に確保していく必要があるため、区長部局と協議しながら、義務教育施設整備基金の計画的な積み立てを目指していきます。

また、高密都市の豊島区において、学校用地は敷地面積が大きく、立地条件が良い場所もあり、建物の高層化や延床面積の拡張が可能なケースもあります。学校用地は区民の貴重な財産であり、合理的な活用が望ましいことから、民間施設との複合化や他の公共施設との複合化などによる整備コストの縮減についても検討していきます。

③ 校舎一体型の学校整備について

豊島区の学校施設は、校地面積が狭いため、改築に際しては、工事中の仮校舎の確保が必須条件です。一方、仮校舎の種地は限られていることから、学校改築に際して、仮校舎の確保が非常に重要な課題です。

池袋本町小学校と池袋中学校の校舎一体型小中連携校のように、小学校と中学校の校舎を一体的に整備することができれば、原則として、改築時の仮校舎を2施設から1施設に減らすことができます。また、学習情報センター（学校図書館）やプールの共用、職員室を1つにすることにより、施設の合理化や整備コストの縮減が図ることができます。さらに、小学校と中学校の改築が同時並行で進められるため、学校施設全体の更新のスピードを加速することができます。小学校と中学校が一つの校舎に入ること、小学校と中学校の連携が促進されるなど、教育面でのメリットもあります。

池袋本町小学校及び池袋中学校で施設を一体にしたことによる効果、校舎一体型にすることによるスケジュール・コストの優位性などを考慮のうえ、新たな校舎一体型の学校整備について検討をしていきます。

3-2 学校改築における仮校舎について

豊島区では各学校用地が狭小であることから、工事期間中の子どもたちの学習環境を可能な限り良好なものとするため、これまでの学校改築においては、例外なく校舎外に仮校舎を設けてきており、今後もこの方針を維持していく必要があります。

仮校舎用地については、学校用地と同等の敷地面積が必要であり、また、児童・生徒の通学時間に配慮し、可能な限り改築校の近くに設けることが必要です。

こうした条件を踏まえ、仮校舎を整備することが可能な区有地は以下の通りです。

なお、都市化が進み、広大な用地が限られている豊島区の都市環境を踏まえると、仮校舎用地の確保は改築を進めていく最も重要な課題の一つです。用地確保のための取り組みを継続していく必要があります。

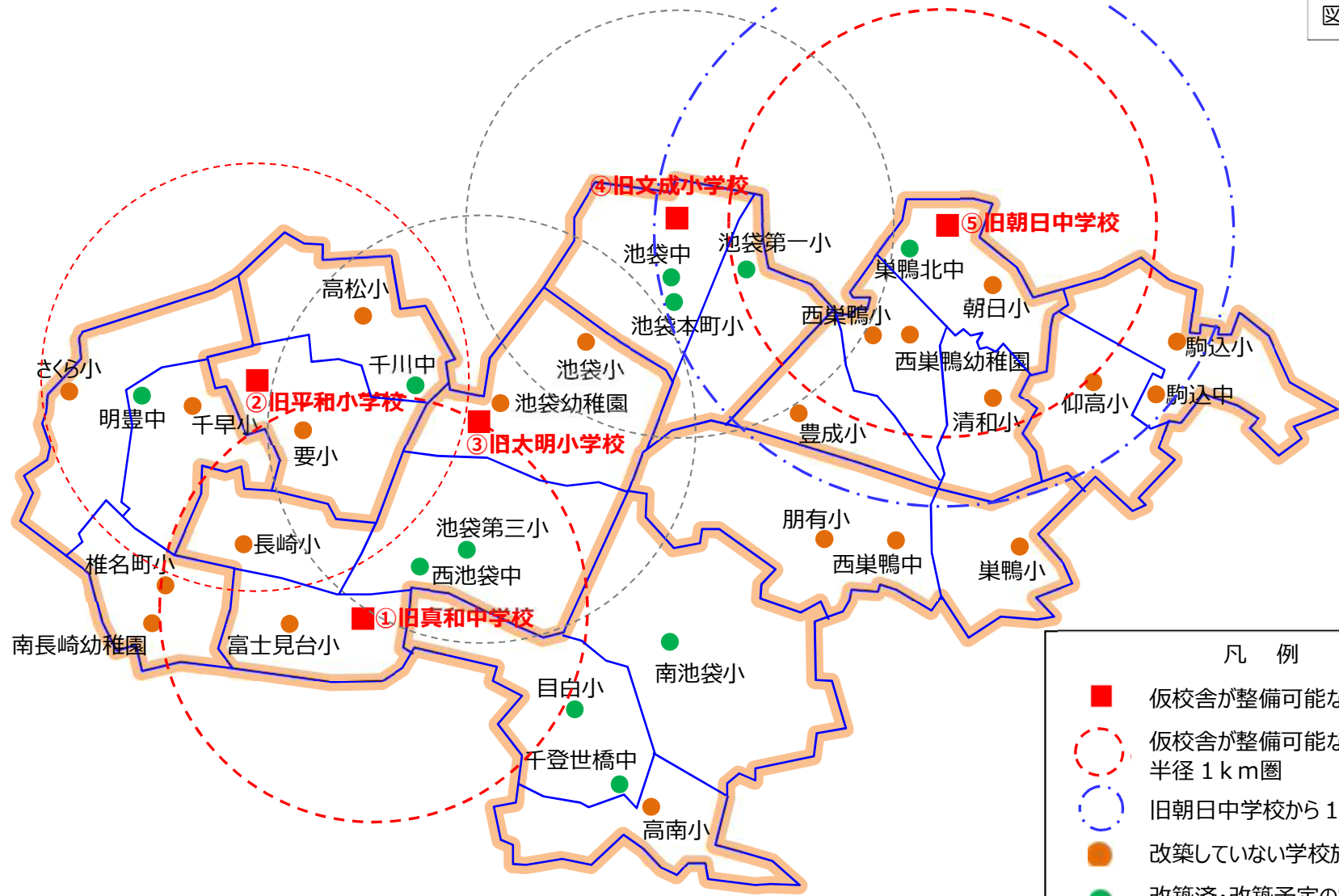
仮校舎として整備が可能な区有地一覧表

図表 27

番号	区有地	住 所	敷地面積	1km 圏内の学校施設 (仮校舎までの直線距離)	備 考
①	旧真和中学校	目白 5-24-12	7,253 m ²	富士見台小学校 (370m) 長崎小学校 (690m) 椎名町小学校 (1,000m)	・現施設を仮校舎として使用可能 (平成 21 年度整備 6,735 m ²) ・令和 3 年 2 月から令和 4 年 12 月 まで西部生活福祉課の仮移転先と して利用予定。校舎一部を N P O 法人に貸し付け中。
②	旧平和小学校	千早 2-39-3	5,670 m ²	千川中学校 (750m) 要小学校 (290m) 千早小学校 (350m) 高松小学校 (660m) 長崎小学校 (760m) さくら小学校 (950m)	・敷地を西部区民事務所等として暫 定活用中。 ・千川中学校の仮校舎用地として使 用することが決定。今後仮校舎施 設を整備予定。 ・体育館あり(千早地域文化創造館 縦目的ホールとして活用中)。
③	旧大明小学校	池袋 3-30-8	8,123 m ²	池袋小学校 (480m)	・みらい館大明として N P O 法人に貸 し付け中。 ・校舎あり 4,175 m ² S39 年度築
④	旧文成小学校	池袋本町 4-36-1	5,062 m ²	池袋小学校 (810m)	・池袋第一小学校が仮校舎で利用 中。 ・校舎あり 4,387 m ² S44 年度築
⑤	旧朝日中学校	西巢鴨 4-9-1	5,334 m ²	朝日小学校 (440m) 西巢鴨幼稚園 (680m) 西巢鴨小学校 (780m) 清和小学校 (950m) 仰高小学校 (1,000m) ※駒込中学校 (1,430m)	・校舎あり 3,091 m ² S45 年度築 ※「豊島区立小・中学校の適正化第 二次整備計画」にて小学校の通学 距離を 1 k m に設定しているが、中 学校の通学距離は 1.5 k m にして いることを踏まえ、参考に駒込中 学校を記載。

計画期間中に仮校舎として整備が可能な区有地

図表 28



凡 例	
■	仮校舎が整備可能な区有地
○ (dashed red)	仮校舎が整備可能な土地より半径 1 km 圏
○ (dashed blue)	旧朝日中学校から 1.5Km 圏
● (orange)	改築していない学校施設
● (green)	改築済・改築予定の学校施設

3-3 施設の更新手法について

これまで豊島区では、「学校改築」及び「その他改修」の2つの手法で施設更新を進めてきましたが、短期的に全ての学校を改築するには時間と財源の課題があり、仮校舍確保が困難な学校もあるため、現実的ではありません。一方、短期的に改築が難しい学校について、従来の改修によって老朽化対策を行うだけでは、充実した教育環境を実現することができません。

そこで、前項に挙げた諸課題をクリアしつつ、学校施設の全体的かつ持続的なレベルアップを実現するため、新たに「長寿命化改修」を加えた3つの手法を組み合わせ、学校施設の長寿命化を図ります。

(1) 学校改築

老朽化により構造上危険な状況にあったり、教育上、著しく不適當な状況にあったりする既存建物を建て替えることを改築と言います。将来的には全ての学校を改築する必要がありますが、改築工事中には、教育環境を確保するための仮校舍が必要なため、敷地外への仮校舍の確保が改築計画を立てるうえでの前提となります。

仮校舍の条件に加え、改築に係る財源確保、周辺地域の施設再構築に伴う土地利用なども踏まえながら、引き続き計画的な改築を展開していきます。

学校用地は、区の中でも比較的大きな敷地であり、建築条件等にもよりますが、高層化することや建築可能な床面積を活用することなども可能となります。学校施設を複合化していくことなどにより公共施設の再構築を進めることや、民間事業者のアイデアやノウハウを活用した学校改築など、学校用地の特性を生かした整備手法を区長部局と連携を図りながら今後検討していきます。

なお、学校施設1校を改築するために必要な経費は、平成26年度以降の主な改築実績を踏まえると、約47億円（設計や初度調弁経費なども含む）が想定されます。

(2) 長寿命化改修

将来的には全ての学校を改築する必要がありますが、仮校舎の確保が見通せない学校施設については、現時点で学校改築を計画することが難しいため、老朽化対策と合わせて設備面でのレベルアップを集中的・全面的に図る「長寿命化改修」を実施し、改築校との教育環境の格差縮小を図ります。

長寿命化改修にあたっては、学校図書館の学習情報センター化やICT環境の整備など改築校に準じた学習環境の充実を図るとともに、施設のバリアフリー化対応や防災機能の充実も検討します。また、躯体や設備の改修にあわせて、教室等の備品についても更新を図ります。

また、工事期間中の学習環境の確保に加え、少人数学級の導入や児童数増による教室と子どもスキップの面積の確保を見据えながら、学校の敷地の状況や空き教室の状況などを踏まえ、現在高南小学校において整備を進めているような敷地内の別棟を、必要に応じて建設していきます。

長寿命化改修を1校実施するために必要な経費は、過去の区施設の改修実績における施工単価や長寿命化改修の検討対象となる学校施設の延床面積などを踏まえると、約30億円（別棟の整備費用も含む）が想定されます。

図表 29

改築および長寿命化改修の概要

手法	改築	長寿命化改修
前提条件	仮校舎確保可能	仮校舎確保困難
内容	校舎を全て解体し、新たな校舎を整備	校舎を解体せず、改修を集中的に実施し、学習環境の充実を図る（※1）
工事期間	2年半程度	4年程度（※2）
設備レベル	新たな設備に更新する	可能な限り改築に準じた設備に更新する
建物寿命	新築（80年以上寿命あり）	30年程度延命を図る
想定費用	約47億円	約30億円

※1 躯体のみを残して全面的な改修工事を行う「スケルトン改修」は、仮校舎が必要なため、都市計画に関する高さ制限などを踏まえ、改築が不利となる場合に限り検討対象とする。

※2 工事中の教室等確保のための別棟整備の期間も含む。

(3) その他改修

学校施設には、外壁、屋上、設備、校庭など様々な場所や機器等があり、劣化状況や耐用年数に応じて、補修や機器の更新をする必要があります。

これまでも豊島区では予防保全の考え方に基づき、部分的な老朽化対策を目的とした大規模改修を劣化状況や耐用年数に応じて、箇所ごとに15～20年周期で実施してきました。

今後についても、施設の状況を鑑みながら計画的な大規模改修を実施し、施設の健全性を確保していきます。

図表 30

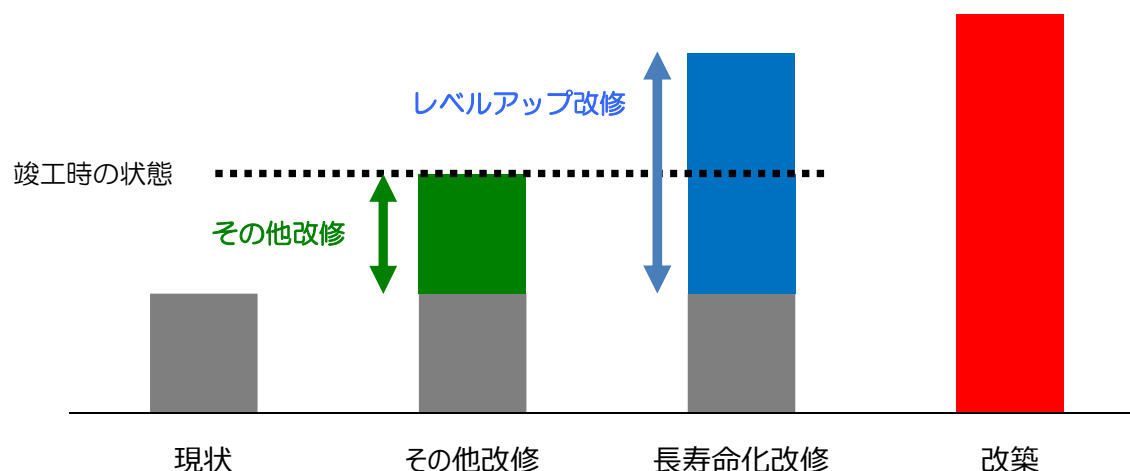
改築、長寿命化改修、その他改修の概要

手法	内容	工事期間	設備レベル	仮校舎	建物寿命
改築	校舎を全て解体し、新たな校舎を整備	2年半程度	新たな設備に更新する	必要	新築(80年以上寿命あり)
長寿命化改修	校舎を解体せず、躯体や設備の改修を集中的に実施	4年程度 (※)	可能な限り改築に準じた設備に更新する	不要	30年程度延命を図る
その他改修	老朽化した外壁塗装・屋上防水や設備の一部のみを改修	半年～1年程度	ほぼ向上なし	不要	延命効果なし

※工事中の教室等確保のための別棟整備の期間も含む

設備レベルのイメージ

図表 31



3-4 長寿命化改修工事の概要

具体的には、以下のとおり従来から実施している大規模改修とレベルアップ改修を組み合わせて、集中的に工事を行うことで、長寿命化改修を実現します。集中工事を実現するためには、工事の際の教室確保が必要となるため、空き教室の状況などを踏まえ、別棟の整備工事も検討します。

また、効果的な改修の実現のため、設計着手前に、既存施設の状況を把握するための調査を行うことも検討します。

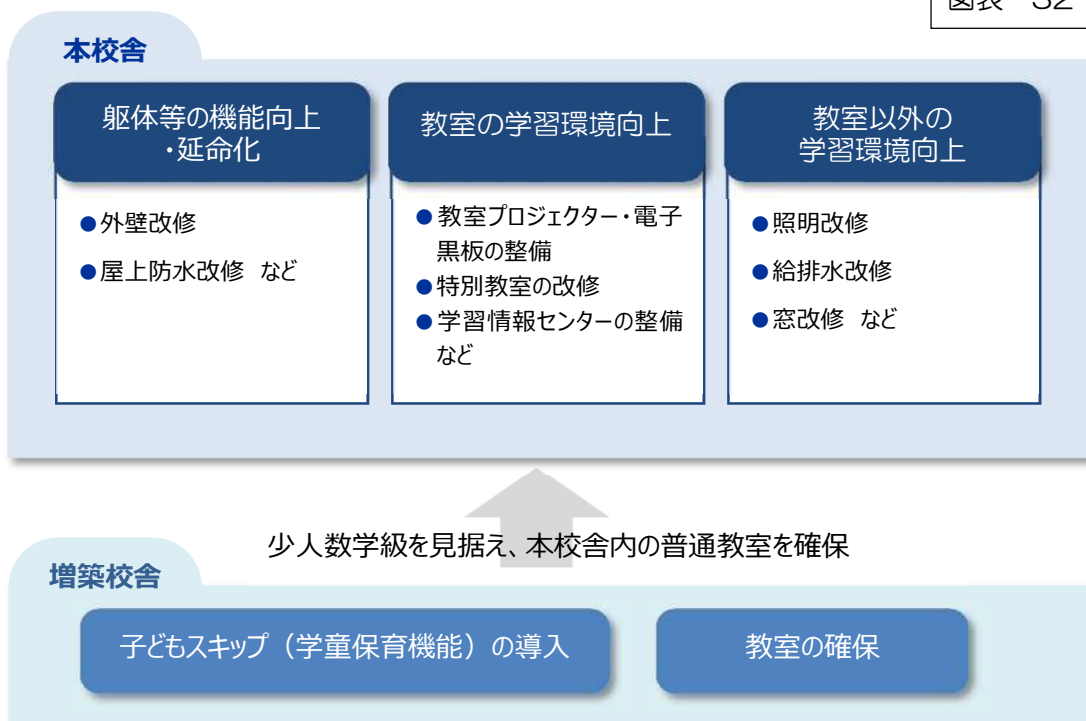
〔大規模改修（老朽化修繕）〕

屋上や外壁などの外装、床や天井などの内装、電気設備や機械設備などの経年劣化による損耗や機能低下に対して、建築時の状態へ回復することを言います。

〔レベルアップ改修（機能向上改修）〕

老朽化した建物を将来にわたって長く使い続けるため、単に物理的な不具合を直すのみではなく、建物の機能や性能を改築校並みの水準まで引き上げることを言います。

図表 32



① 躯体の長寿命化改修

躯体の長寿命化改修の概要

図表 33

大規模改修	レベルアップ改修
<ul style="list-style-type: none"> ● 部材の落下やひび割れなどを防ぐための外壁改修 ● 漏水を防ぐための屋上防水改修など 	<ul style="list-style-type: none"> ● コンクリートの劣化を防止するための改修 (例：塗装の吹き付け直し など) ● バリアフリー化を推進するための改修 (例：段差の解消、スロープの設置 など) ● 断熱性や遮音性を高めるための改修 (例：窓ガラスの複層化、外壁の断熱化、体育館の断熱化 など)

② 設備の長寿命化改修

設備の長寿命化改修の概要

図表 34

大規模改修	レベルアップ改修
<ul style="list-style-type: none"> ● 老朽化した設備（キュービクル、プールろ過機、空調 など）を更新するための設備改修 	<ul style="list-style-type: none"> ● ICT 環境の充実のための改修 (例：教室への電子黒板・プロジェクター整備、図書室の学習情報センター化 など) ● 省エネ化・ランニングコスト削減のための改修 (例：照明の LED 化、水道直結化 など) ● 感染症対策のための改修 (例：手洗い場の自動水栓化、換気設備の更新 など)

③ その他長寿命化改修

その他長寿命化改修の概要

図表 35

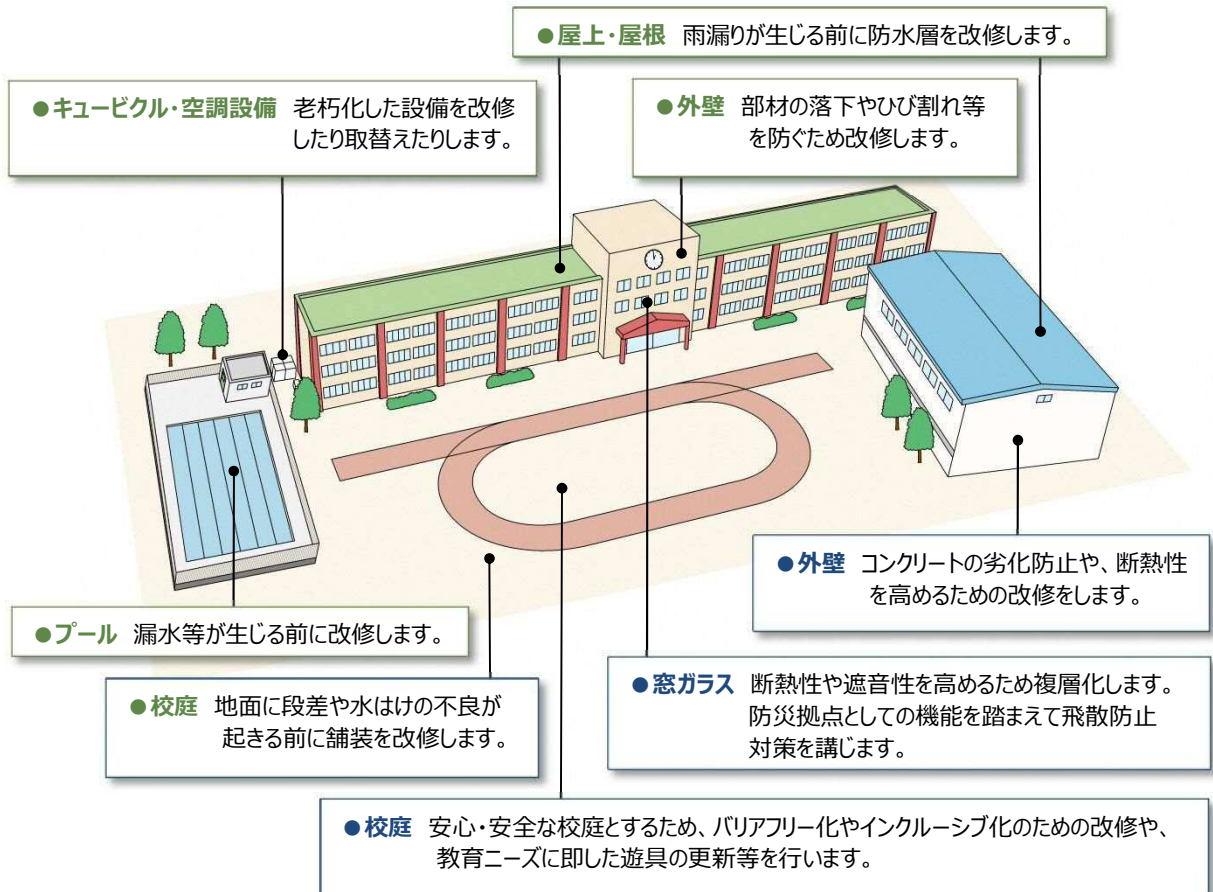
大規模改修	レベルアップ改修
<ul style="list-style-type: none"> ● 老朽化した部位を更新するための改修 (例：校庭舗装改修、特別教室改修、プール改修 など) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 換気を十分に行い、子どもの密を避けるための教室改修 (例：換気窓の設置、共用廊下と教室の間仕切りの可動化 など) ● 安心・安全な校庭改修 (例：インクルーシブ化、教育ニーズに即した遊具の更新 など)

全体イメージ

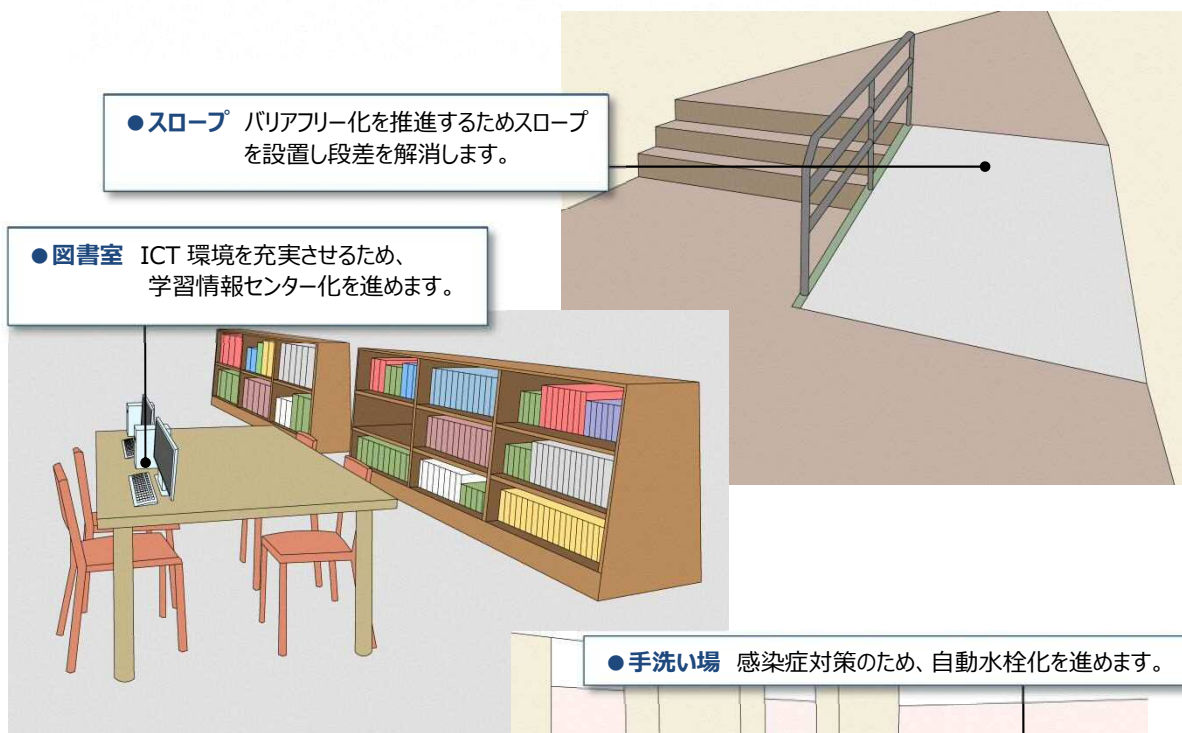
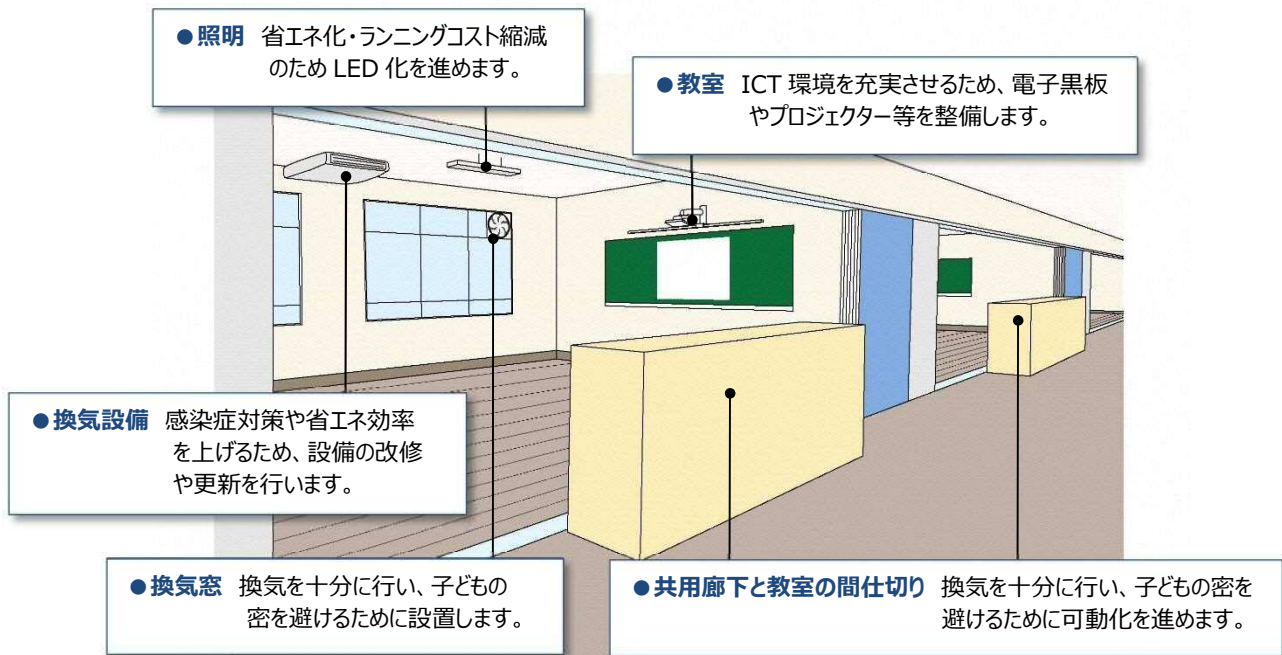
図表 36

凡例

- 大規模改修
- レベルアップ改修



校舎内イメージ

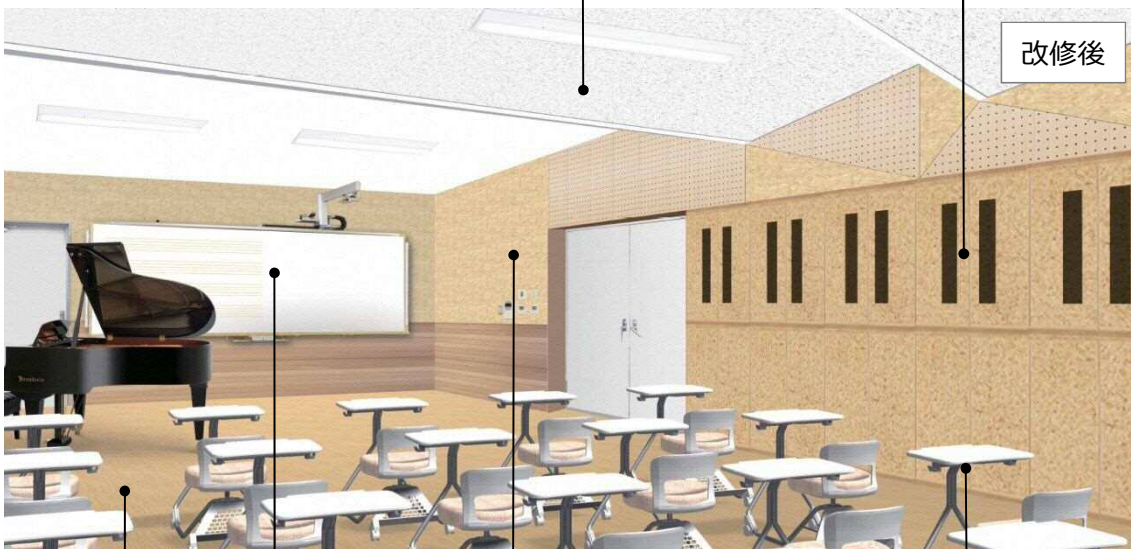


●特別教室（音楽教室）



●天井 ほどよく響き、会話も聞き取りやすい建材を選定するほか、LED照明を導入します。

●収納 扉高さ程度まで増設します。



●椅子 収納式でテーブル付きのものにします。

●壁 ほどよく響き、会話も聞き取りやすい建材を選定するほか、木質材料を採用し、掲示板としても使えるようにします。

●黒板 昇降式の電子ホワイトボード（半分五線譜）や、左右移動タイプの短焦点プロジェクターを採用します。

●床 フローリングとし、ステージは設置せずに全面フラット（バリアフリー対応）とします。

●学習情報センター



●天井 耳障りな反響音を吸収し、静かな教室内環境を実現できる
岩綿吸音板を選定するほか、LED照明を導入します。

●窓面ペアまたは真空ガラスへの
入替えを検討します。

●小壁 ビジュアル展示を増やせるように連続させます。

●壁 木質材料を採用し、壁面書架
以外は掲示板仕様とします。



●床 フローリングとします。

●書架 可能な所に書架を増設します。

●サービスデスク 学校司書と児童・生徒とのコミュニケーションを
重視した形状とし、ICTに対応したものとします。

●椅子・テーブル グループ学習に応じ、自分たちで組み換え
できるシステム形状とします。

●普通教室



●黒板 昇降式の電子黒板や、左右移動タイプの短焦点プロジェクター、巻取式マグネットスクリーン（着脱移動式）を採用します。

●天井 耳障りな反響音を吸収し、静かな教室環境を実現できる岩綿吸音板を選定するほか、LED照明を導入します。

●窓面 ペアまたは真空ガラスへの入替えを検討します。

●廊下間 木製間仕切+引戸で、仕切り面は張りやすい掲示版とし、開放可能な廊下と一体化利用することも検討します。



●教材庫 教師コーナーの背後に教材庫を設置します。

●床 フローリングとし、研磨または張替えを検討します。

●壁 木質材料を採用し、可能な限り掲示板仕様とします。

第4章 計画期間中の改築・長寿命化改修等について

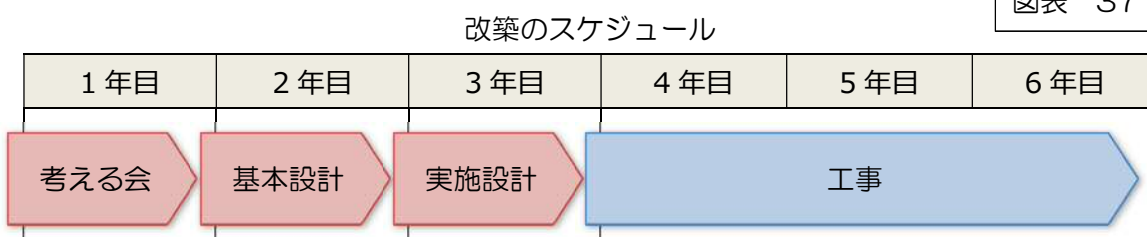
4-1 改築計画

(1) 改築計画のスケジュール

改築については、以下のスケジュールで進めていくことを原則とします。ただし、予算や社会情勢、学校運営等の問題がある場合は、その都度柔軟に対応していきます。

1年目に考える会による基本構想・基本計画の策定、2年目に基本設計、3年目に実施設計、4～6年目に改築工事を実施します。

図表 37



(2) 改築の実施校

これまでの「豊島区立小・中学校改築計画」の整備計画は令和8年度まで実施する予定となっており、それに加えた今後10年間の整備計画を以下に示します。なお、整備計画は、社会情勢の変化に伴う区の財政状況や、児童生徒数の変化に伴って、見直しをすることがあります。

①既存計画

小・中学校改築計画に基づいて、既に改築工事を進めている池袋第一小学校は令和4年度に竣工予定です。千川中学校についても旧平和小学校に仮校舎機能を設けることで、令和8年度に竣工予定です。

図表 38

年度	R4～R8	R9～R13
改築計画掲載校		
池袋第一小学校	令和4年8月竣工予定	
千川中学校	令和8年度竣工予定	

②旧平和小学校を活用した改築計画

旧平和小学校に千川中学校の仮校舎機能を整備する計画を踏まえ、その機能を周辺小学校の改築時にも活用していきます。

計画期間中には、旧平和小学校の仮校舎を活用して要小学校の改築を行う予定です。計画期間前半で改築プランを検討したうえで、計画期間後半で改築事業への着手を目指します。

要小学校は旧平和小学校からの距離が近いため、改築に伴う児童の負担を少なくすることができます。また、要小学校の最古棟の築年数や平均築年数についても、旧平和小学校近隣の学校の中では大きいため、優先的に改築をする必要があります。さらに、都道に面しているため、複合化の検討余地があり、公民連携によるコスト削減も期待できます。

要小学校の以降の旧平和小学校を活用した改築校については、計画期間中に検討していきます。

図表 39

年度	R4～R8	R9～R13
改築（旧平和小）		
千川中学校（再掲）	令和8年度竣工予定	
要小学校	改築プランの検討	改築事業への着手

③旧朝日中学校を活用した改築計画

東部地域には、旧朝日中学校跡地があり、その周囲およそ半径1 km 以内には未改築の学校及び幼稚園が5施設（仰高小学校、清和小学校、西巣鴨小学校、朝日小学校、西巣鴨幼稚園）あります。

旧朝日中学校の周辺を含めた東部地域には、他に学校改築を行うために必要な広さの用地の確保が難しく、老朽化が進んでいる学校施設の改築を進めていくためには、旧朝日中学校跡地を活用しなければ見通しが立たない状況です。

こうした状況を踏まえて、旧朝日中学校を学校改築時の仮校舎として活用する方針とします。

旧朝日中学校を仮校舎として活用する改築校や改築スケジュールについては、計画期間中に検討します。

④旧真和中学校を活用した改築計画

現在は、西部生活福祉課の仮施設やNPOへの貸付をしている旧真和中学校についても、施設の貸付状況や周辺校の老朽化状況などを踏まえ、仮校舎地としての活用を継続して検討していきます。

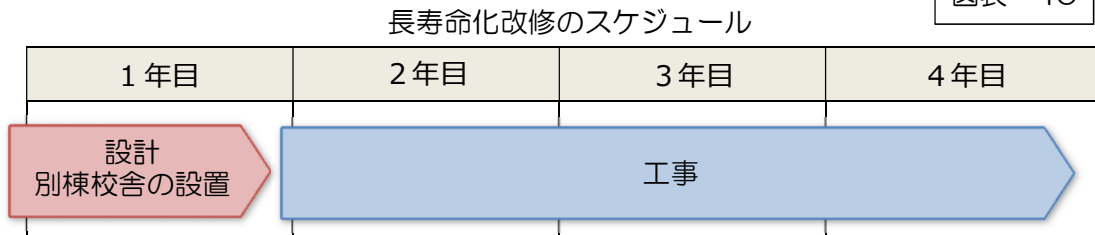
4-2 長寿命化改修計画

(1) 長寿命化改修のスケジュール

長寿命化改修については、原則として、以下の通り工事を進めていくこととします。ただし、学校運営上等の問題がある場合は、その都度柔軟に対応していきます。

1年目に設計、必要に応じて学校敷地内への別棟の設置、2・3・4年目に長寿命化改修工事を実施します。

図表 40



(2) 長寿命化改修の実施校

現時点で仮校舎が整備可能である旧平和小学校、旧朝日中学校、旧真和中学校から1 km圏から外れている学校施設（駒込小学校、巣鴨小学校、豊成小学校、朋有小学校、池袋小学校、高南小学校、駒込中学校（※）、西巣鴨中学校、池袋幼稚園、南長崎幼稚園 35ページを参照）については、将来の改築に向け、長寿命化改修の実施を検討します。

長寿命化改修の具体的な実施校については、計画期間中に検討していきます。

※駒込中学校は旧朝日中学校から約1,430mの距離であり、「豊島区立小・中学校の適正化第二次整備計画」にて中学校の通学距離として設定している1.5 km圏内に入っている。

4-3 その他の修繕及び改修計画

(1) 大規模改修等の計画

改築及び長寿命化改修に加え、施設の状態を確認しながら、予防保全の考え方に基づいた計画的な改修・修繕を引き続き実施していくほか、区内の人口増加や35人学級に関する方針などを踏まえながら、各学校の教室数を確保するための改修工事なども計画的に実施していきます。なお、大規模マンションなどの建設により、児童・生徒数が大幅に増える可能性がある学校については、必要な教室数確保のため、別棟の整備や学校施設の部分的な改築なども検討します。

計画期間中に改築や長寿命化改修が困難な学校施設に対しては、学校教育のICT化への対応を急ぐため、長寿命化改修として電子黒板の整備やプロジェクターなどを整備する教室のICT化改修を集中的に実施することを検討していきます。また、ICT環境以外においても、教育備品のうち児童・生徒の学びと成長に関わるものについては、学校間の設置状況が平準化できるよう整備を進めていきます。

各学校施設の今後3か年分の改修計画については、「豊島区基本計画」の実施計画である「未来戦略推進プラン」の第5章に掲載しています。

(2) 認定こども園の計画

池袋幼稚園などを対象に、近隣の区立保育園との分園型による認定こども園化を検討していきます。

既存建物の状況や保育ニーズなどを考慮しながら、計画期間中での具体化を図ります。

第5章 本計画のフォロー体制

5-1 日常点検の充実

学校施設の長寿命化を図るためには、定期的に改修工事を行うだけでなく、日常的、定期的に施設の点検や情報管理を行う必要があります。

そのため、「豊島区区有施設の点検に関する要綱」などに基づいて、継続的に維持管理の点検・評価の対象とする項目を選定し、選定した部位ごとにチェックリストを作成し、劣化情報の点検情報や点検実施頻度等を設定します。点検結果に基づき、適切に修繕を実施していきます。「豊島区区有施設の点検に関する要綱」に定められている点検内容や安全点検報告書の書式は図表 41・42 の通りです。

図表 41

「豊島区区有施設の点検に関する要綱」に定められている点検内容

点検名称		点検対象
法定点検	法定建築点検	● 敷地及び地盤面
		● 構造耐力上主要な部分
		● 屋根ふき材
		● 内装材
		● 外装材
		● 帳壁その他これらに類する用途に供する建築物の部分及び高架水槽、冷却塔その他建築物の屋外に取り付けるもの
	法定設備点検	● 防火区画を構成する各部分
		● その他防火上主要な部分
		● 排煙設備
		● 換気設備
法定昇降機点検	● 非常用照明設備	
	● 給水設備及び排水設備	
法定防火設備点検	● 国土交通大臣が定める点検の項目	
安全点検	法定昇降機点検	● 昇降機
	法定防火設備点検	● 防火戸その他の建築基準法施行令第 109 条 1 項で定める防火設備
	安全建築点検	● 建築物
	安全設備点検	● 建築設備
	安全遊戯物点検	● 遊戯物

安全点検報告書の書式

図表 42

安全点検報告書		学校専決欄		教育委員会決済	
		係員	学校長	係長	課長
区有施設名					
安全点検年月日		令和 年 月 日			
安全点検員氏名					
点検箇所		点検結果	修理等の必要性・その後の対応		
安全 建築 点検	擁壁等				
	塀				
	門				
	通路				
	車路				
	屋根・トプライト				
	外壁				
	ひさし・玄関ポーチ				
	天井・内壁				
	床				
	(外部) 階段				
	窓・障子				
	ドア				
安全 設備 点検	分電盤・制御盤				
	電気配線				
	照明器具等				
	外灯				
	コンセント・スイッチ				
	シャッター				
	自動扉				
	屋内消火栓設備				
	自動火災報知設備				
	スプリンクラー設備等ヘッド				
	煙感知器・熱感知器				
	ガス漏れ火災警報設備				
	排煙口・排煙窓・排煙用手動開放装置				
	排気口・給気口				
	空調機用屋外機等				
	空調・換気ダクト				
	空気調和機・エアコン・ファンコイル等				
	自動制御機器				
	冷温水配管・冷却水配管・油配管・ガス配管				
	給水配管・排水配管				
湯沸器・コンロ					
流し台等					
便器・洗面器等					
その他の付属物					
安全 遊戯物 点検	ぶらんこ				
	滑り台				
	鉄棒・雲梯・はん登棒				
	ジャングルジム				
その他					

5-2 施設情報システムの有効活用

本計画を推進するにあたっては、前述の日常点検情報や改修履歴情報のほか、過去の維持管理経費を一元管理し、施設の実態を把握する必要があります。

豊島区では、「豊島区施設情報システム」を活用することにより、今後の改修内容や時期等を総合的に判断します。

5-3 コスト縮減の継続的な検討

日常的・定期的な点検・診断結果に基づいて、対処療法的な事後保全ではなく、計画的な予防保全による維持管理・修繕・更新等を行なうことで、引き続きトータルコストの縮減及び平準化を図ります。

また、今後の改築や改修工事等においては、PPP（公民連携）やPFI等の事業手法を用いた民間活力の導入を検討していきます。また、学校施設と他の公共施設との複合化や、公民連携による学校と民間施設の複合化、プール施設の共用化や民間施設の利用検討などによる管理運営の効率化とコスト縮減を検討していきます。

5-4 公共施設等総合管理計画との連携

豊島区公共施設等総合管理計画の計画期間は平成 28 年度から令和 27 年度の 30 年間で、前期・中期・後期に区分した「総合管理計画 行動計画」を策定するとしています。一方、本計画の整備計画の期間は、令和 4 年度～令和 13 年度までの 10 年間ですので、「総合管理計画 行動計画」の前期及び中期と連携し、以下の視点に基づいた学校施設の適正管理を行います。

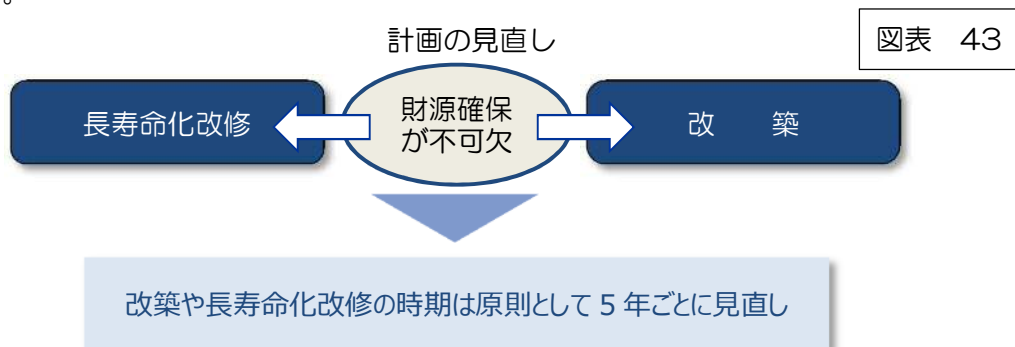
豊島区公共施設等総合管理計画による適正管理のための視点

- 安全性・快適性の確保
(施設情報システムの活用等)
- 経費の縮減
(事業費やランニングコスト*も含めた経費の縮減)
- 施設の集約化・多機能化
(施設の集約化や民営化などの様々な手法を検討)
- 資産としての有効活用
(学校跡地の有効活用等)
- 多様な主体との協働
(区民の声を反映する手法の導入等)
- 整備・更新時における検討
(「施設の最適化」「施設の整備・運営手法」「資産活用の可能性」「施設の複合化」等を検討)

また、今後は豊島区公共施設等総合管理計画の見直し時期に合わせて、豊島区学校施設等長寿命化計画も見直しを検討するものとします。

5-5 計画の定期的な見直し

新型コロナウイルスの影響など、昨今の社会環境の流動性の高さを踏まえ、本計画については、原則として 5 年ごとに見直しを図り、改築や長寿命化改修の時期を改めて精査していきます。



資料1 学校施設長寿命化計画策定委員会 委員名簿及び検討経過

(1) 委員名簿

	職名	氏名	備考
委員長	副区長	齊藤 雅人	
副委員長	教育長	金子 智雄	
委員	施設整備担当部長	近藤 正仁	令和2年3月まで
		末吉 正伸	令和2年4月から
委員	都市整備部長	近藤 正仁	令和2年4月から
委員	教育部長	兒玉 辰哉	
委員	財政課長	三沢 智法	令和3年3月まで
		木村 俊雄	令和3年4月から
委員	施設計画担当課長	木村 俊雄	令和3年3月まで
		宮本 敦史	令和3年4月から
委員	施設整備課長	東屋 英俊	
委員	庶務課長	副島 由理	令和3年3月まで
		樋口 友久	令和3年4月から
委員	教育施策推進担当課長	坂本 大	令和2年4月から
委員	学務課長	田邊 栄一	令和3年3月まで
		星野 良	令和3年4月から
委員	放課後対策課長	高桑 光浩	令和2年3月まで
		小野 義夫	令和2年4月から
委員	学校施設課長	宮本 敦史	令和3年3月まで
		宇野 貢彰	令和3年4月から
委員	指導課長	佐藤 明子	

(2) 検討経過

回数	開催日	審議内容
第1回	令和2年2月26日	<ul style="list-style-type: none">・学校施設長寿命化計画策定の背景と目的・各学校施設の現状等・他区の長寿命化計画に関する状況・計画策定スケジュール など
第2回	令和2年3月26日	<ul style="list-style-type: none">・学校改築・長寿命化改修における財政計画・他区における改築校等の選定基準・学校施設の長寿命化計画の位置づけ など
第3回	令和2年4月24日	<ul style="list-style-type: none">・仮校舎想定地・旧平和小学校跡地及び周辺区有施設 など
第4回	令和2年5月21日	<ul style="list-style-type: none">・旧平和小学校跡地及び周辺区有施設・旧朝日中学校仮校舎整備の検討 など
第5回	令和2年6月30日	<ul style="list-style-type: none">・旧朝日中学校の仮校舎としての活用・学校施設等長寿命化計画の骨子案 など
第6回	令和2年9月1日	<ul style="list-style-type: none">・旧平和小学校跡地の再構築プラン・長寿命化計画の概要版 など
第7回	令和3年5月31日	<ul style="list-style-type: none">・改築、長寿命化改修等の掲載内容 など
第8回	令和3年7月28日	<ul style="list-style-type: none">・改築、長寿命化改修等の掲載内容・長寿命化計画の素案 など
第9回	令和3年9月9日	<ul style="list-style-type: none">・長寿命化計画の案 など

資料2 豊島区における学校統廃合及び改築の実績

改築等計画名	決定した	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022				
	計画	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度				
		H8 豊島区立小・中学校の適正化第一次整備計画																											
			H13 豊島区立小・中学校の適正化第一次整備計画 改訂																										
											H20 豊島区立小・中学校改築計画																		
																			H25 豊島区立小・中学校改築計画 第一次改訂										
高田中	統合		計画での工事予定																										
雑司谷中			工事実績 高田中跡地			千登世橋中																							
高田小						仮校舎：高田小																							
雑司谷小			統合			計画での工事予定																							
日出小						工事実績 雑司谷中跡地	南池袋小																						
千早中																													
第十中						統合																							
長崎中																													
要町小	統合		要小																										
平和小																													
大塚中																													
朝日中			統合		巣鴨北中																								
千川小																													
大成小						統合		さくら小																					
時習小																													
大塚台小						統合		朋有小																					
大明小																													
池袋第五小																													
道和中																													
真和中																													
目白小																													
池袋第三小																													
池袋第二小																													
文成小																													
池袋中																													
池袋第一小																													
千川中																													

SDGs 未来都市豊島区



豊島区は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

豊島区学校施設等長寿命化計画

令和4年（2021年）2月

発行 豊島区教育委員会事務局教育部学校施設課

〒171-8422 豊島区南池袋 2-45-1

電 話 03-4566-2789

F A X 03-3980-7200

